佐賀県文化財調査報告書第130集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　14

１９９６年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書　14

１９９６年3月

佐賀県教育委員会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業等の施行に先立ち実施した、埋蔵文化財の確認調査の結果をまとめたものです。

本県には埋蔵文化財が多数存在しており、県教育委員会では、これらの貴重な文化財の保護と農業等を営む方々の生活基盤を整備する事業との調整を図るため、文化財の確認調査と記録の保存を進めております。

今回、平成７年度農業基盤整備事業等施行予定地区について文化財確認調査を行った結果、旧石器時代から近世にわたる各時代の遺跡が確認され、ここにその成果の一端を紹介するものです。

本書が、文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

この調査にあたって、文化庁、九州農政局、県農林部・農村農地整備局、各市町村教育委員会・土地改良担当課並びに地元関係各位の深い御理解と御協力に対し、心からお礼申し上げます。

平成８年３月29日

佐賀県教育委員会

教育長　林　田　重　人

例　　言

1．本書は、国庫補助を受け平成６年度に確認調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財調査報告書である。

2．調査は、市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行った。

3．トレンチ（試掘溝）位置図作成、遺構の実測、写真撮影は調査員が行った。

4．遺物の整理・製図・報告書作成作業は、佐賀県文化財課（神埼事務所）で行った。

・遺物整理……田中ハルミ・中島美須三

・図面整理・遺物実測……江島美恵子・上滝　光子・山口美佐子

・製図……三好　文子

5．本書の執筆は下記の分担で行った。

Ⅰ、Ⅱ－１～５、Ⅳ……西田　和己

Ⅱ－６、Ⅲ－16……川副麻理子

Ⅲ－１……石橋　新次（鳥栖市教育委員会）

Ⅲ－２……久山　高史（　　〃　　）

Ⅲ－３・４……大田　　睦（中原町教育委員会）

Ⅲ－５・６……鶴田　浩二（上峰町教育委員会）

Ⅲ－７……堤　　安信（千代田町教育委員会）

Ⅲ－８・13・14 …… 角信　一郎（佐賀市教育委員会）

Ⅲ－９・10……古賀　章彦（　　〃　　）

Ⅲ－11・12……三代　俊幸（　　〃　　）

Ⅲ－15……岩永　雅彦（多久市教育委員会）

7．本書に用いた方位は、原則として座標北とし、磁北を用いた場合はその旨を記した。

8．挿図中の■は遺構・遺物が確認されたトレンチ、□は遺構・遺物が確認できなかったトレンチである。

9．本書Ⅱ平成６年度文化財確認調査の内容は、調査員から提出された調査結果報告をもとに編集者がまとめている。Ⅱの報告及びⅢの各担当者の原稿のうち「土壙」や「……跡」の表記等については統一を図り、また一部表現を変えたところがある。これらの文責は編集者に帰す。

10．本書の編集は、西田が行った。

目　　次

Ⅰ．調査に至る経過 …… 1
1．平成７年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査 …… 1
（1）農業基盤整備事業等に係る協議 …… 1
（2）文化財確認調査 …… 1
（3）農業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議 …… 1
2．調査組織 …… 2

Ⅱ．平成６年度文化財確認調査の内容 …… 11
1．佐賀東部地区の調査 …… 11
（1）東脊振村 …… 12
（2）神埼町 …… 13
（3）その他の地区 …… 14
2．佐賀西部地区の調査 …… 14
（1）佐賀市 …… 14
（2）多久市 …… 20
（3）その他の地区 …… 20
3．佐賀南部地区の調査 …… 22
4．佐賀北部地区の調査 …… 23
（1）伊万里市 …… 24
（2）相知町 …… 26
5．佐賀上場地区の調査 …… 29
（1）唐津市 …… 29
（2）肥前町 …… 32
（3）玄海町 …… 33
（4）鎮西町 …… 33
6．筑後川下流用水事業に係る調査 …… 36

Ⅲ．平成６年度発掘調査の概要 …… 38
1．四阿屋遺跡 …… 38
2．立石惣楽遺跡 …… 40
3．本村遺跡 …… 42
4．西寒水七本柳遺跡 …… 44
5．屋形原遺跡 …… 46
6．堤六本谷遺跡 …… 48
7．本村五本柳遺跡 …… 50
8．下和泉一本椎遺跡 …… 52
9．来迎寺遺跡 …… 54
10．若宮原遺跡 …… 56
11．西千布遺跡 …… 58
12．友貞遺跡 …… 60
13．忠兵衛屋敷遺跡 …… 62
14．修理田遺跡 …… 64
15．岡遺跡 …… 66
16．田手二本松遺跡 …… 68

Ⅳ．まとめ …… 69

挿図目次

図１　平成６年度農業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図 …… ５～６
図２　佐賀東部地区周辺地形図…… 11
図３　東脊振村林道九千部山横断線トレンチ配置図…… 12
図４　神埼町早稲隈山地区周辺地形図…… 13
図５　佐賀西部地区周辺地形図…… 15
図６　佐賀市金立北部地区トレンチ配置図…… 16
図７　佐賀市金立南部地区トレンチ配置図…… 18
図８　佐賀市兵庫西部地区トレンチ配置図…… 19
図９　多久市本多久地区トレンチ配置図…… 21
図10　佐賀南部地区周辺地形図…… 22
図11　佐賀北部地区周辺地形図…… 23
図12　伊万里市木須団地トレンチ配置図…… 25
図13　伊万里市木須里団地トレンチ配置図…… 27
図14　相知町平山上地区トレンチ配置図…… 28
図15　佐賀上場地区周辺地形図…… 30
図16　唐津市上場地区（雲透地区）トレンチ配置図…… 31
図17　唐津市上場Ⅱ期地区（支線道路４号八幡－馬部線）トレンチ配置図 …… 32
図18　肥前町上場Ⅲ期地区（赤坂地区）トレンチ配置図…… 34
図19　玄海町上場Ⅳ期地区（長倉地区）トレンチ配置図…… 35
図20　鎮西町上場地区（麦原地区）トレンチ配置図…… 37
図21　四阿屋遺跡位置図…… 38
図22　立石惣楽遺跡位置図…… 40
図23　本村遺跡位置図…… 42
図24　西寒水七本柳遺跡位置図…… 44
図25　屋形原遺跡位置図…… 46
図26　堤六本谷遺跡位置図…… 48
図27　本村五本柳遺跡位置図…… 50
図28　下和泉一本椎遺跡位置図…… 52
図29　来迎寺遺跡位置図…… 54
図30　若宮原遺跡位置図…… 56
図31　西千布遺跡位置図…… 58

図32　友貞遺跡位置図……60
図33　忠兵衛屋敷遺跡位置図……62
図34　修理田遺跡位置図……64
図35　岡遺跡位置図……66
図36　田手二本松遺跡位置図……68

写真図版目次

図版 1　四阿屋遺跡……39
図版 2　立石惣楽遺跡……41
図版 3　本村遺跡 4 号墳出土銅椀……42
図版 4　本村遺跡……43
図版 5　西寒水七本柳遺跡……45
図版 6　屋形原遺跡……47
図版 7　堤六本谷遺跡……49
図版 8　本村五本柳遺跡……51
図版 9　下和泉一本椎遺跡……53
図版10　来迎寺遺跡……55
図版11　若宮原遺跡……57
図版12　西千布遺跡……59
図版13　友貞遺跡……61
図版14　忠兵衛屋敷遺跡……63
図版15　修理田遺跡……65
図版16　岡遺跡……67
図版17　田手二本松遺跡全景……68

表 目 次

表 1　農業基盤整備事業等施行予定地区内文化財確認調査一覧表（平成 6 年度）……7～8
表 2　平成 6 年度発掘調査遺跡一覧表……9～10

Ⅰ．調査に至る経過

1．平成７年度農業基盤整備事業等に伴う文化財確認調査

（１）農業基盤整備事業等に係る協議

県農林部と教育委員会が昭和53年４月に締結し、昭和59年４月に一部改正した「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、平成６年９月に平成７年度農業基盤整備事業施行計画について事業担当部局から文化財保護担当部局への協議が求められた。平成７年度工事地区のうち予備調査（分布・試掘・確認調査）の対象となった地区は、佐賀東部地区（中原町・上峰町・東脊振村・神埼町・三瀬村・脊振村）14.7ha、佐賀西部地区（佐賀市・川副町・大和町・富士町・多久市）175.7ha、佐賀南部地区（大町町・福富町・鹿島市・太良町・塩田町）55.9ha、佐賀北部地区（伊万里市・西有田町・浜玉町・相知町・厳木町・七山村）146.1ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・肥前町・玄海町）26haの合計418.4haである。施行主体は九州農政局伊万里開拓建設事業所所管の国営、県農林部・農村農地整備局所管の県営、市町村所管の団体営事業等に区分される。また、九州農政局筑後川下流農業水利事業所・水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業に伴う協議（三田川町・北茂安町・諸富町・大和町）もなされた。

（２）文化財確認調査

協議した施行計画について現地踏査などの結果を基に検討を行い、文化財確認調査が必要と認められた地区（表１）を決定した。これを受け当該市町村の教育委員会・土地改良担当課、県農林部・農村農地整備局との第１回目の「平成７年度農業基盤整備事業に係る文化財の保護に関する協議会」を県教育委員会が主催して、10月11日に開催し、文化財確認調査の時期など円滑な実施について協議した。

文化財確認調査は、原則として稲刈り終了から麦の作付けまでの期間（10月下旬～12月上旬）までの間に行ったが、地区によっては上物の状況等により年度末までずれ込む箇所もあった。

確認調査は原則として、２×２ｍのトレンチ（試掘溝）を20ｍ間隔で碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、範囲などを調査した。

（３）農業基盤整備事業等と文化財保護に関する協議

確認調査によって明らかになった事業施行予定地区内の遺跡の広がりは、佐賀東部地区1,100㎡、佐賀西部地区261,495㎡、佐賀北部地区3,000㎡、佐賀上場地区18,300㎡の計283,895㎡であった。佐賀南部地区では遺跡は確認されなかった。

この調査結果を基に関係市町村教育委員会が主体となって個別協議が行われ、12月16日に第２回目の合同会議を開催し、平成７年度の事業計画と埋蔵文化財保護との調整がなされた。大方の市町村では、この会議において平成７年度工事施工分の保存・発掘調査面積の調整が整ったが、佐賀西部地区の佐賀市分は、遺跡確認面積が膨大であり、調査体制との絡みから調整は平成７年度当初までずれ込んだ。このような経過を経て調整を行った結果、平成７年度工事施工分となった遺跡の大部分は盛土工法など設計変更によって保存することになり、残りの59,151㎡については平成７年度に発掘調査を実施して記録保存を図ることにしたが、佐賀市分では平成８年度以降に発掘調査を振り分ける措置も行った。

平成６年度に市町村教育委員会が実施した発掘調査（表２）は、平成５年度に同様な過程で確認調査を実施し、農業基盤整備事業等担当部局との協議を経て、記録保存で対応することになったものである。

2．調査組織

平成６年度

調査主体

佐賀県教育委員会

総括

局長　高島　忠平　県文化財課長

次長　木下　　巧　県文化財課参事　瀬戸　明廣　県文化財課長補佐　田平　徳栄　県文化財課長補佐

庶務

岩瀬　茂生　県文化課庶務企画係長　　古屋きよみ　県文化課庶務企画係主査

鷲崎　義彦　県文化課庶務企画係主査　　池田　　学　文化課庶務企画係主査

調査

調査主任	西田　和己	県文化財課指導係長		
調査員	森田　孝志	県文化財課指導係	仁田坂　聡	唐津市教育委員会
	徳富　則久	県文化財課指導係	岩永　雅彦	多久市教育委員会
	小松　　譲	県文化財課指導係	船井　向洋	伊万里市教育委員会
	徳永　貞紹	県文化財課指導係	荒谷　義樹	伊万里市教育委員会
	市川　浩文	県文化財課指導係	加田　隆志	鹿島市教育委員会
	川副麻理子	県文化財課調査係	八尋　　実	神埼町教育委員会
	福田　義彦	佐賀市教育委員会	松尾　法博	東脊振村教育委員会
	前田　達男	佐賀市教育委員会	太田　　睦	中原町教育委員会
	西田　　巌	佐賀市教育委員会	後藤　宏爾	鎮西町教育委員会
	角　信一郎	佐賀市教育委員会	藤井　浩司	肥前町教育委員会
	内田　孔明	唐津市教育委員会	有光　宏之	玄海町教育委員会

調査協力

佐賀市教育委員会	大和町教育委員会	基山町教育委員会
唐津市教育委員会	富士町教育委員会	中原町教育委員会
鳥栖市教育委員会	神埼町教育委員会	三根町教育委員会
多久市教育委員会	千代田町教育委員会	上峰町教育委員会
伊万里市教育委員会	三田川町教育委員会	小城町教育委員会
武雄市教育委員会	東脊振村教育委員会	浜玉町教育委員会
鹿島市教育委員会	脊振村教育委員会	七山村教育委員会
川副町教育委員会	三瀬村教育委員会	厳木町教育委員会

相知町教育委員会　有田町教育委員会　江北町教育委員会
北波多村教育委員会　西有田町教育委員会　有明町教育委員会
肥前町教育委員会　山内町教育委員会　太良町教育委員会
玄海町教育委員会　北方町教育委員会　塩田町教育委員会
鎮西町教育委員会　大町町教育委員会　嬉野町教育委員会
呼子町教育委員会

九州農政局伊万里開拓事業所
九州農政局筑後川下流農業水利事務所
水資源開発公団筑後川下流用水建設所
佐賀中部農林事務所
烏栖農林事務所
武雄農林事務所
鹿島農林事務所
伊万里農林事務所
唐津農林事務所
各市町村土地改良担当課
地元各位

調査指導
小野　正敏　国立歴史民俗博物館

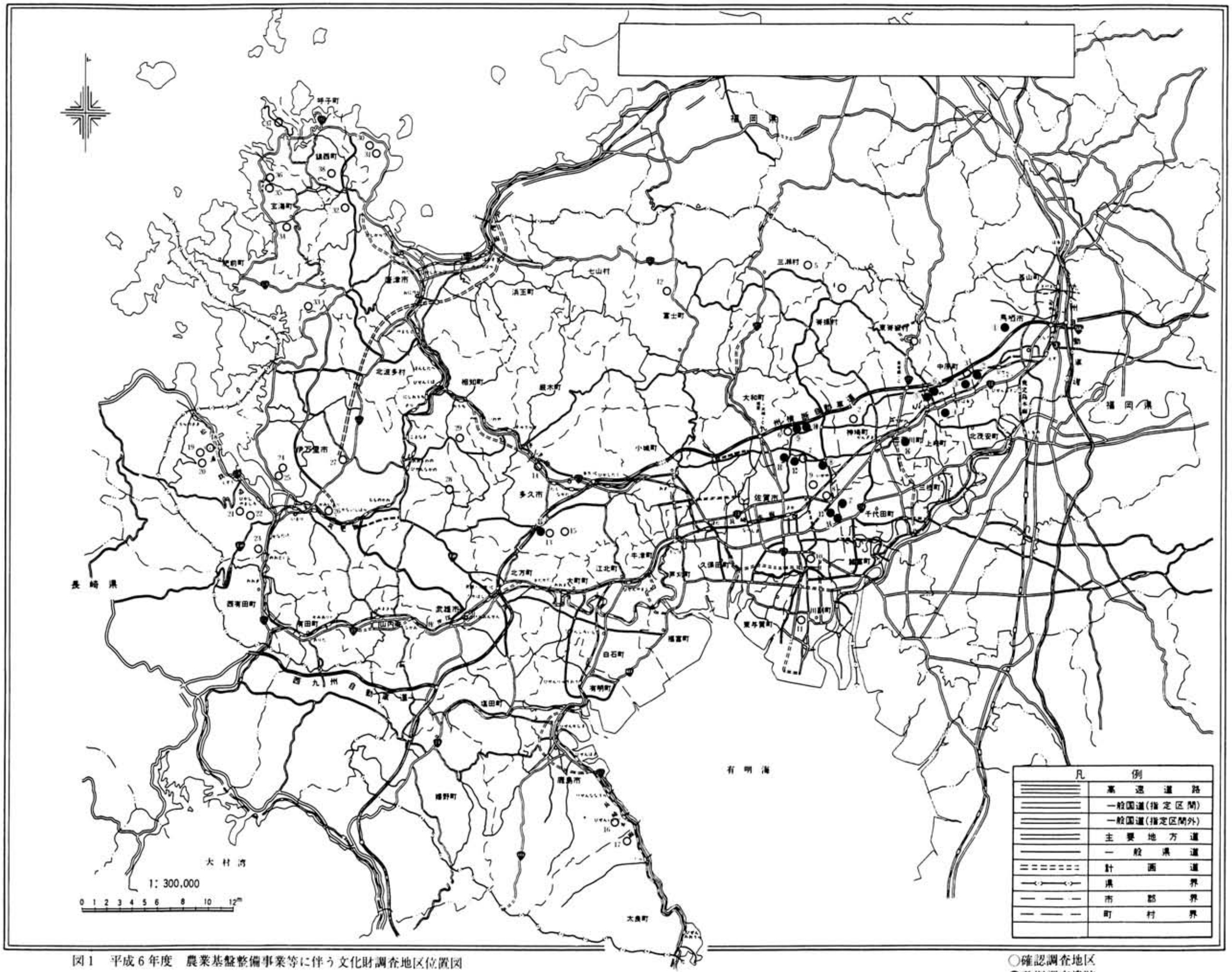


図1　平成6年度　農業基盤整備事業等に伴う文化財調査地区位置図

○確認調査地区
●発掘調査遺跡

	確認調査地区
佐賀東部	1．東脊振村(林道九千部山横断線)
	2．神埼町（早稲隈山地区）
	3．中原町（中原北部地区）
	4．脊振村（林道小杉線）
	5．三瀬村（林道山井谷線）
佐賀西部	6．佐賀市（金立北部地区）
	7．〃（金立南部地区）
	8．〃（兵庫南部地区）
	9．〃（兵庫西部地区）
	10．〃（北川副地区）
	11．川副町（咾分地区）
	12．富士町（富士北部地区）
	13．多久市（本多久地区）
	14．〃（北町地区）
	15．〃（南多久地区）
佐賀南部	16．鹿島市（飯田地区）
	17．太良町（伊福地区）
佐賀北部	18．伊万里市（久原地区）
	19．〃（東分地区）
	20．〃（城地区）
	21．〃（脇野団地）
	22．〃（脇野第2団地）
	23．〃（中里地区）
	24．〃（木須団地）
	25．〃（木須里団地）
	26．〃（今岳団地）
	27．〃（府招団地）
	28．〃（山倉地区）
	29．相知町（上平山地区）
佐賀上場	30．唐津市〔上場地区(雲透地区)〕
	31．〃〔上場Ⅱ期地区(湊大山地区)〕
	32．〃〔〃（八幡一馬部線）〕
	33．肥前町〔上場Ⅲ期地区(赤坂地区)〕
	34．玄海町〔上場Ⅳ期地区(長倉地区)〕
	35．〃〔〃（棚橋地区）〕
	36．〃〔〃（大橋地区）〕
	37．鎮西町〔上場地区(麦原地区)〕
	38．〃〔〃（打上丸野地区）〕

発掘調査遺跡
①四阿屋遺跡
②立石惣楽遺跡
③本村遺跡
④西寒水七本柳遺跡
⑤屋形原遺跡
⑥堤六本谷遺跡
⑦本村五本柳遺跡
⑧下和泉一本椎遺跡
⑨来迎寺遺跡
⑩若宮原遺跡
⑪西千布遺跡
⑫友貞遺跡
⑬忠兵衛屋敷遺跡
⑭修理田遺跡
⑮岡遺跡
⑯田手二本松遺跡

表１　農業基盤整備事業等施行予定地区内文化財確認調査一覧表（平成６年度）

	地　区	市町村名	工事地区名	所　在　地	確認調査	調査結果	担　当　者	備　考
1	佐賀東部	東脊振村	九千部山横断	神埼郡東脊振村大字松隈	0.1	中・近世古道	松尾	筑前街道跡
2		神埼町	早稲隈山	神埼郡神埼町大字尾崎	1	古墳群	八尋	天神尾古墳群
3		中原町	中原北部	三養基郡中原町大字蓑原	7	遺跡は確認されなかった	太田	
4		脊振村	林道小杉線	神埼郡脊振村大字腹巻	1	遺跡は確認されなかった	徳永	
5		三瀬村	林道山井谷線	神埼郡三瀬村大字藤原	1	遺跡は確認されなかった	徳富	
6	佐賀西部	佐賀市	金立北部	佐賀市金立町大字金立	28	弥生時代～中世集落跡	前田	上赤井手遺跡、金立遺跡、権現原遺跡
7			金立南部	佐賀市金立町大字千布	17	古墳時代～中世集落跡	西田巌	西千布遺跡
8			兵庫南部	佐賀市兵庫町大字瓦町	35	遺跡は確認されなかった	角	
9			兵庫西部	佐賀市兵庫町大字下淵	43	中・近世集落	福田・	妙常寺北遺跡、妙常寺南遺跡
10			北川副	佐賀市北川副町大字新郷	12	古墳時代・中世の遺物が出土した	徳富	
11		川副町	嘉分	佐賀郡川副町大字嘉分	13	遺跡は確認されなかった	森田	
12		富士町	富士北部	佐賀郡富士町大字中原	1.3	遺跡は確認されなかった	徳永・市川	
13		多久市	本多久	多久市多久町岡	9	縄文時代集落跡	岩永	岡遺跡
14			北多久	多久市北多久町大字茄原・番所	3.2	遺跡は確認されなかった	岩永	
15			南多久	多久市南多久町字平原	1.2	石器が数点出土した	岩永	
16	佐賀南部	鹿島市	飯田	鹿島市大字飯田	6	遺跡は確認されなかった	加田	
17		太良町	伊福	藤津郡太良町大字伊福	3	遺跡は確認されなかった	徳永・市川	
18	佐賀北部	伊万里市	脇野	伊万里市東山代町大字脇野	27	遺跡は確認されなかった	荒谷	
19			脇野第２	伊万里市東山代町大字脇野	20	遺跡は確認されなかった	船井	
20			木須団地	伊万里市木須町真中	8.1	縄文時代包含層、近代遺構（炭鉱試掘坑）	船井	真中遺跡
21			木須（里）	伊万里市木須町宮ノ前	2.8	縄文・古墳時代包含層、中世集落跡	船井	宮ノ前遺跡
22			今岳	伊万里市大坪町中道	16	遺跡は確認されなかった	船井	
23			府招	伊万里市南波多町府招	5	遺跡は確認されなかった	船井	
24			山倉	伊万里市大川町東田代	0.2	遺跡は確認されなかった	船井	
25			中里	伊万里市二里町吉野	3	遺跡は確認されなかった	荒谷	
26			久原	伊万里市山代町久原	1.3	遺跡は確認されなかった	荒谷	
27			東分	伊万里市山代町東分	8	遺跡は確認されなかった	荒谷	
28			城	伊万里市山代町城	10	遺跡は確認されなかった	荒谷	
29		相知町	平山上	東松浦郡相知町大字平山上	10	中世生活跡	徳富	
30	佐賀上場	唐津市	馬部八幡線	唐津市佐志・枝去木	1	旧石器・縄文時代包含層	内田	八幡溜遺跡、笹ノ尾遺跡
31			雲透	唐津市湊	2	弥生時代包含層	仁田坂	雲透遺跡
32		鎮西町	打上丸野	東松浦郡鎮西町大字打上	10	遺跡は確認されなかった	後藤	
33			麦原	東松浦郡鎮西町大字名護屋	10	中・近世の遺物が出土した	後藤	
34		肥前町	赤坂	東松浦郡肥前町大字赤坂	1.7	旧石器・縄文時代包含層	藤井	赤坂Ⅲ遺跡
35		玄海町	棚橋	東松浦郡玄海町大字今村	0.7	遺跡は確認されなかった	有光	
36			長倉	東松浦郡玄海町大字長倉	0.2	弥生時代墳墓、中世石敷群	有光	長倉遺跡

表２　平成６年度発掘調査遺跡一覧表

市町村名	遺跡名	略　号	遺跡の所在地	調査面積（㎡）	調査主体者	調査担当者	遺跡の内容
鳥　栖　市	四阿屋遺跡	ＦＡＺ	鳥栖市牛原町字井川口	4,875	鳥　栖　市　教　育　委　員　会	石　橋	中世城下町関連遺構
	立石惣楽遺跡	ＦＴＳ	鳥栖市立石町字野副、惣楽	16,830		久　山	縄文時代集石・包含層、古墳群、平安・中世集落跡
中　原　町	本村遺跡	ＨＯＮ	三養基郡中原町大字蓑原	3,800	中　原　町　教　育　委　員　会	太　田	弥生時代・中世集落跡、古墳群、古代道路状遺構
	西寒水七本柳遺跡	ＮＮＹ	三養基郡中原町大字原古賀字七本柳	15,400			弥生時代墓地・集落跡、中世集落跡
上　峰　町	屋形原遺跡	ＹＫＴ	三養基郡上峰町大字堤字一本松	5,000	上　峰　町　教　育　委　員　会	鶴　田	奈良時代集落跡
	堤六本谷遺跡	ＴＴＲ	三養基郡上峰町大字堤字一本柳	2,000			弥生時代～近世集落跡
千代田町	本村五本柳遺跡	ＨＧＹ	神埼郡千代田町大字境原字五本柳	1,000	千　代　田　町　教　育　委　員　会	堤	中・近世集落
佐　賀　市	下和泉一本椎遺跡	ＳＩＳ	佐賀市久保泉町大字下和泉	5,200	佐　賀　市　教　育　委　員　会	角	弥生時代～近世集落跡
	来迎寺遺跡	ＲＫＪ	佐賀市金立町大字金立	835		古　賀	中世～近世集落跡
	若宮原遺跡	ＷＭＢ	佐賀市金立町大字金立	630			縄文時代包含層、中世集落跡
	西千布遺跡	ＮＣＦ－１	佐賀市金立町大字千布	851		三　代	古墳時代～平安時代集落跡
	友貞遺跡	ＴＢＳ－８～11	佐賀市金立町大字千布	2,340			弥生時代墓地、奈良時代～中世集落跡
	忠兵衛屋敷遺跡	ＴＤＹ	佐賀市兵庫町大字瓦町	210		角	中世～近世集落跡
	修理田遺跡	ＳＲＤ	佐賀市巨勢町大字修理田	362			中世～近世集落跡
多　久　市	岡遺跡	ＯＫＡ	多久市多久町字岡	1,260	多　久　市　教　育　委　員　会	岩　永	近世屋敷跡
三田川町	田手二本松遺跡	ＴＤＭ	神埼郡三田川町大字田手字二本松	262	佐　賀　県　教　育　委　員　会	川　副	縄文時代～弥生時代包含層

Ⅱ．平成６年度文化財確認調査の概要

１．佐賀東部地区の調査

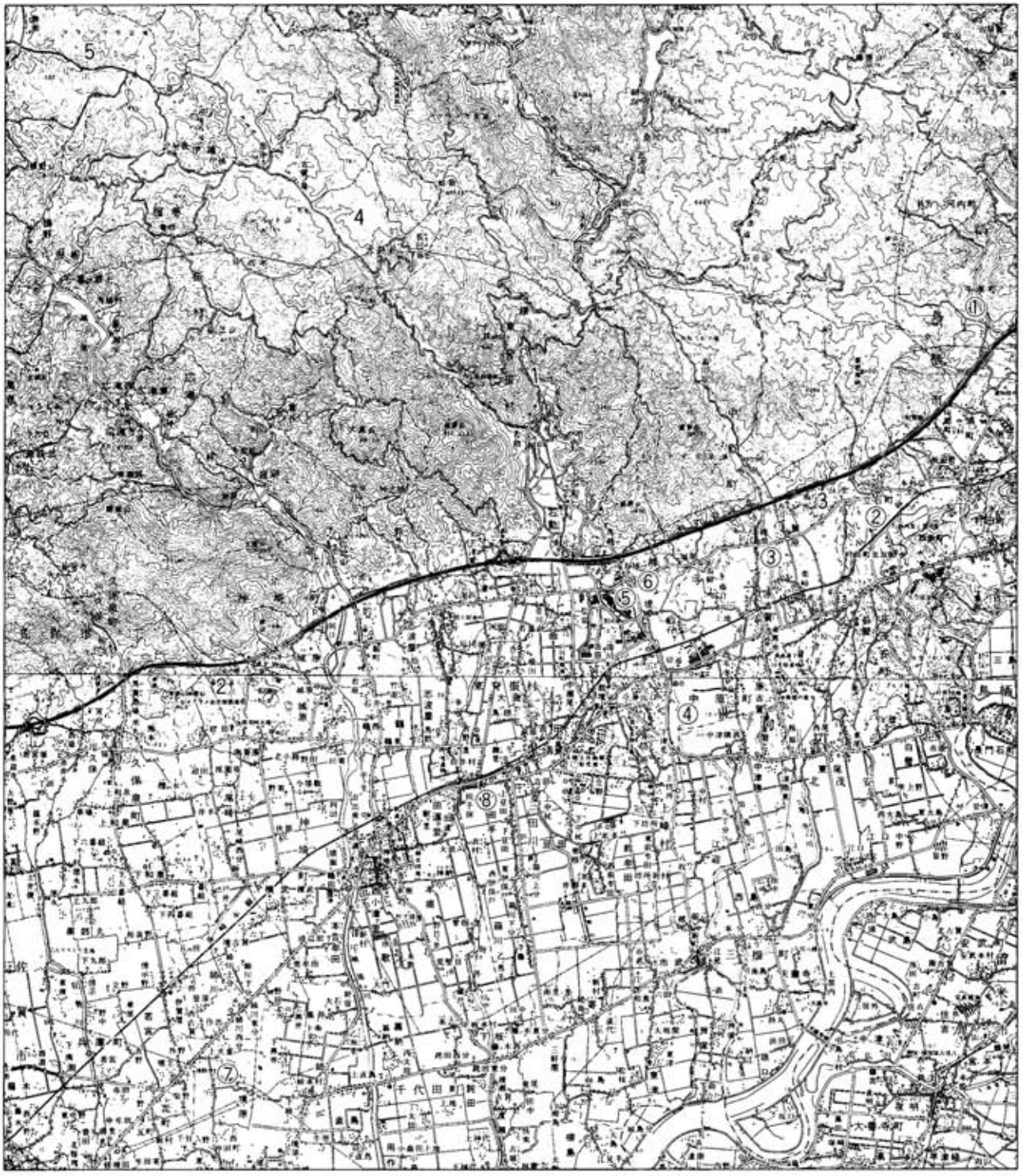


図２　佐賀東部地区周辺地形図（1:100,000）

１．東脊振村（林道九千部山横断線）
２．神埼町　（早稲隈山地区）
３．中原町（中原北部地区）
４．脊振村（林道小杉線）
５．三瀬村（林道山井谷線）

①四阿屋遺跡
②立石惣楽遺跡
③本村遺跡
④西寒水七本柳遺跡
⑤屋形原遺跡
⑥堤六本谷遺跡
⑦本村五本柳遺跡
⑧田手二本松遺跡

（１）東脊振村（林道九千部山横断線）

広域基幹林道九千部山横断線（図３）が、東脊振村大字松隈字九瀬谷の国道385号線から計画されたため、事前の踏査を実施したところ、麓の坂本から脊振山中宮の霊仙寺、さらに筑前へと通じる「背振坂」と呼ばれる古道の一部が事業対象地に含まれていることがわかった。古道保存のため路線変更等を協議したが、周辺の地形及び取付工法の問題から路線の変更は難しく、このため規模、通路面確認のための調査を実施し、あわせて2,700㎡を対象に地形測量を行った。対象地は標高220ｍ前後の脊振山南斜面に位置する。３ヶ所のトレンチから通路面は確認できなかったが、いずれも地山を掘削して切り通し状に幅約３ｍの通路を造っていることがわかった。２トレンチでは、花崗岩の偏平な石や径0.1～0.2ｍの礫の堆積があり、通路面の舗装材が流失したものではないかと考えられる。また１トレンチでは地蔵菩薩が確認された。確認調査により古道の存在が明らかになったため、工事着手前にさらに調査を実施した。その結果、１トレンチと３トレンチの中間から「町石」と呼ばれる標石が検出された。「町石」は幅30㎝、高さ55㎝、厚さ15㎝あり、上部は欠損している。「○永十年十月吉日重松（カ）九兵衛尉」の文字が彫り込まれている。「町石」は坂本から霊仙寺まで行く道標で１町ごとに立てられ、村内の修学院の文書には寛永10年(1633)に立てられたと記されている。現在「町石」は１町宮と呼ばれる「山入り」の起点をはじめ、５町、６町、13町、14町の位置に存在していることがわかっており、今回検出した町石は、上部が欠損しているため、何町石かはっきりしないが、２町石か３町石にあたると考えられる。

今回の調査で、この古道の造られた時期については明確にできないが、「町石」の存在とともに「正保四年肥前一国絵図」には記載され近世初頭には存在しており、さらに霊仙寺跡等山岳仏教の修験道場との関連を考える必要がある。

この古道は、周知の埋蔵文化財包蔵地として周知化されていなかったため、「筑前街道」として周知した。また、工事に際して古道の概略を示す説明板の設置を行っている。

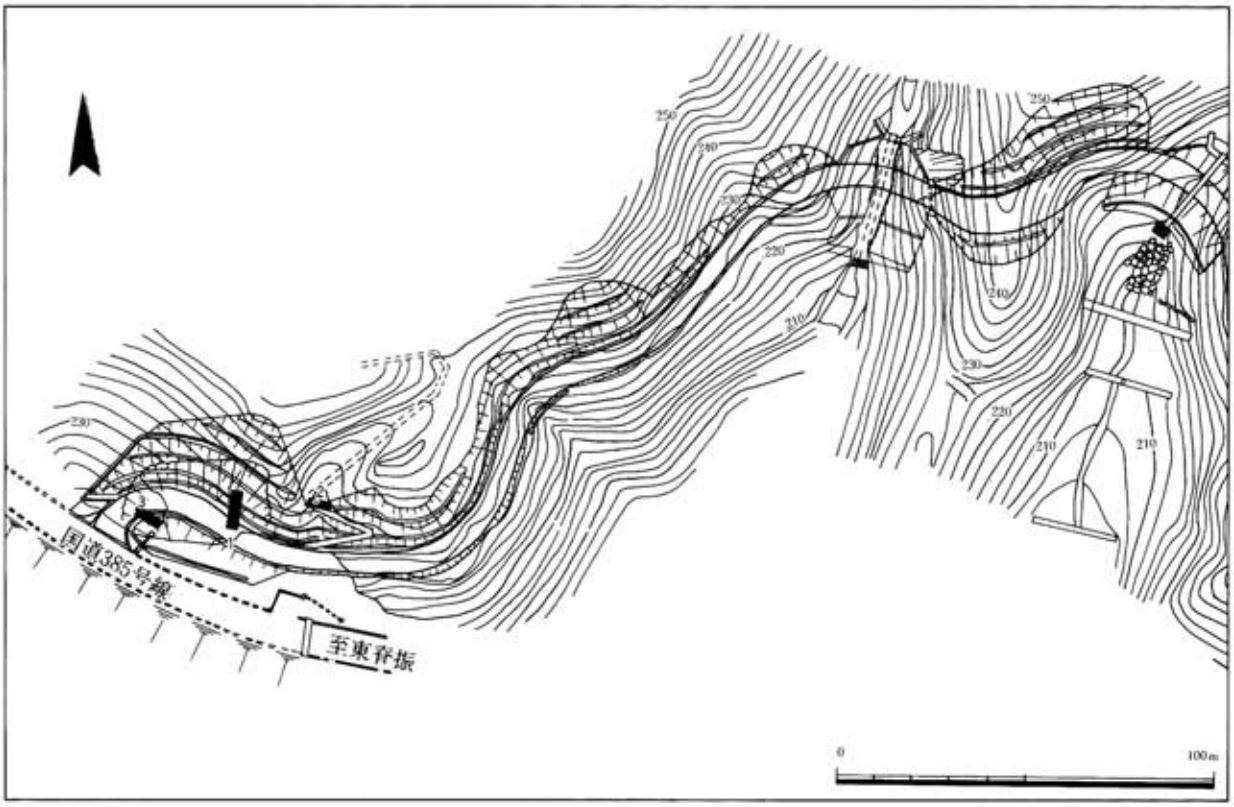


図３　東脊振村村林道九千部山横断線トレンチ配置図

（２）神埼町（早稲隈山地区）

早稲隈山地区（図４）では、林地保全事業に伴い、神埼町大字尾崎字早稲隈で確認調査を実施した。標高174ｍの早稲隈山は烽の所在地で知られる日の隈山とともに「七隈」と呼ばれる景勝地でもある。この一帯は天神尾古墳群、日の隈古墳群、西日の隈古墳群、日の尺池古墳群など古墳の密集する地域であり、平原須恵器窯跡も確認されている。また西方には史跡の帯隈山神篭石がある。

平成６年５月に早稲隈山山頂から北側山腹にかけて無数の亀裂が入っていることがわかり、このままでは土砂崩壊が起きる可能性があるため、平成６年７月に農林部及び神埼町と協議を行い、文化財の有無について急遽確認調査を行うことになった。８月23日～25日に実施した確認調査の結果、２基の古墳と古墳の可能性が高い石積１基、性格不明の集石１基が確認された。これを基に８月31日に関係者と協議を行い、その席上亀裂が頂上部全域に及んでいることや亀裂自体も大きくなっており、150ｍの等高線まで掘削を行わないと土砂崩壊の危険性は回避できず、早急な工事が必要との報告がなされた。工事用の進入路にあたる古墳については、路線変更等工事計画との調整を図ったが、地形的に保存は難しく、最終的に４基の遺構について神埼町教育委員会が主体となり、県教育委員会も協力して早急に本調査を行うことになった。なお、本調査は９月から行い、４基とも竪穴系横口式石室を主体部とする５世紀後半～６世紀前半の円墳であることがわかった。

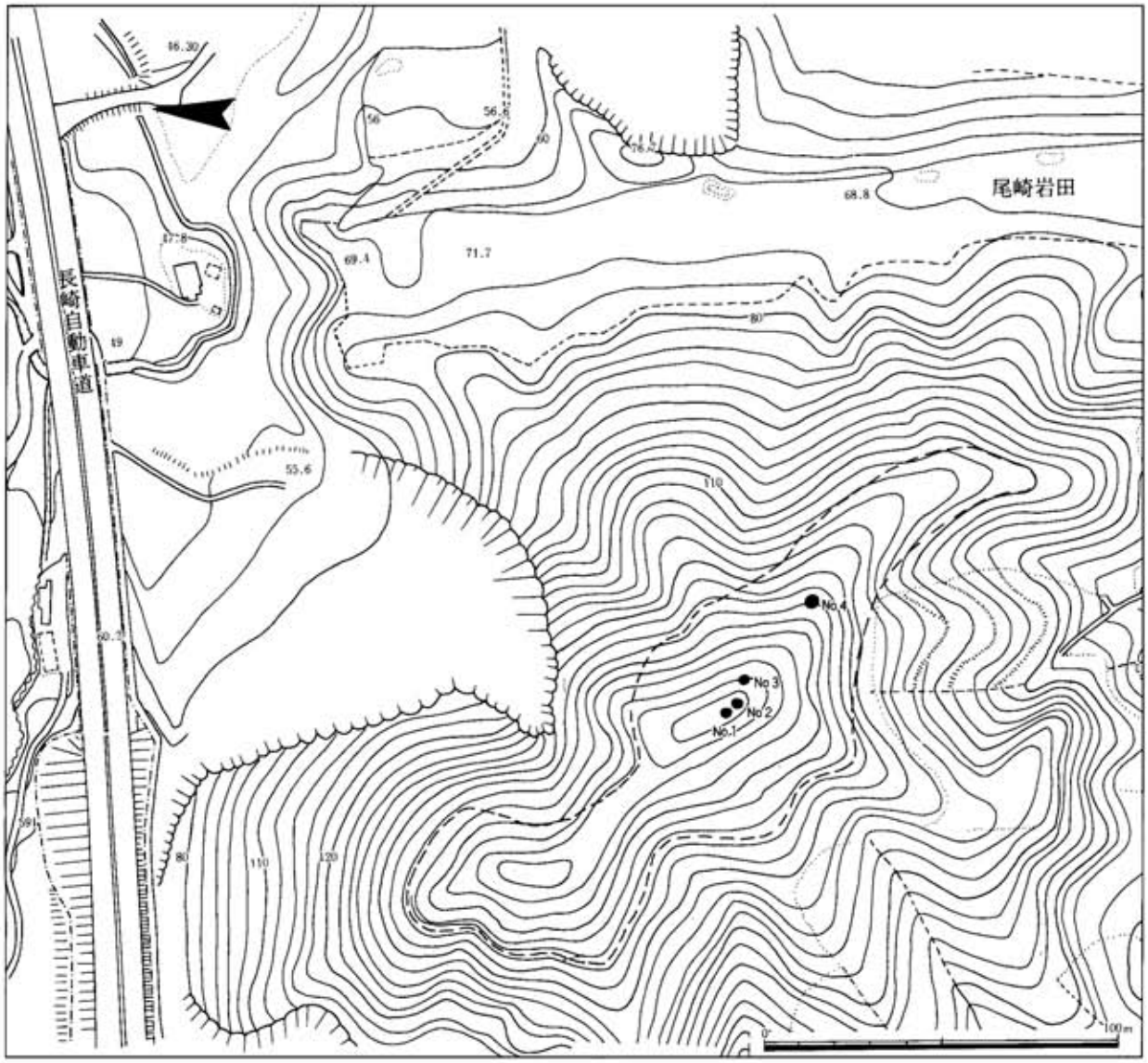


図４　神埼町早稲隈山地区周辺地形図　　（●は、確認した古墳）

（３）その他の地区（中原町、三瀬村、脊振村）

中原町では、中原北部（香田）地区を平成７年度県営圃場整備事業に伴い、中原町大字蓑原字鳥ノ巣の約1.8haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、脊振山系の石谷山から延びる標高約50ｍの尾根及び丘陵部に位置する水田及び畑地であり、弥生時代～古墳時代の遺物散布地である鳥巣遺跡の範囲に含まれる。また付近には前田原遺跡や冠石古墳群などの遺跡が存在する。調査では、６ヶ所のトレンチを設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。

三瀬村では、普通林道山井谷線に伴い確認調査を実施した。

調査は、三瀬村大字藤原の延長約100ｍを対象に行った。

調査対象地は、三瀬村東部の脊振山中の標高約490ｍの尾根上にあり、尾根の一部が平坦地であることや周辺の谷部や緩斜面を中心に縄文時代を中心とする遺物散布地が分布しているため、調査を実施した。３ヶ所のトレンチを設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。

脊振村では、高密度林道網整備事業小杉線に伴い確認調査を実施した。

調査は、脊振村大字腹巻字小杉の延長約800ｍを対象に行った。

調査対象地は、脊振山中の標高約600～670ｍの尾根上にあり、現地踏査により確認した平坦部３ヶ所にトレンチを設定したが、遺構・遺物は検出されなかった。

２．佐賀西部地区の調査

（１）佐賀市（金立北部地区・金立南部地区・兵庫南部地区・兵庫西部地区・北川副地区）

金立北部地区（図６）は、平成７年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市金立町大字金立の28haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地区は脊振山系から派生する舌状の洪積台地上とその谷間の標高15～23ｍ水田及び畑地である。対象地区全域が周知の埋蔵文化財包蔵地にあたり、東側が縄文時代～中世の遺物散布地である上赤井手遺跡、北側と南西側はそれぞれ縄文時代～古墳時代及び中世の遺物散布地である金立遺跡と権現原遺跡の範囲に含まれている。周辺では、上赤井手遺跡の北方に位置する来迎寺遺跡の調査で縄文時代中期の遺物包含層と平安時代の遺構が調査されている。金立遺跡のすぐ北方に位置する大門集落内では縄文時代の遺物包含層と弥生時代の甕棺墓群の調査が行われている。また長崎自動車道建設に伴い大門西遺跡では弥生時代前期末～中期前半と古墳時代の集落及び古墳の調査が、六本黒木遺跡では弥生時代中期前半の甕棺墓群と古墳の調査が行われている。

調査は、対象地区内の高畑、比高がある田面、水路・道路予定地を中心に110ヶ所のトレンチを設定している。その結果、検出した遺構は大きく７群に分けられた。Ⅰ群（24～26・31～46・70～72トレンチ）は、市道大門線の東西にまたがる棚田と畑地で、検出した遺構は溝、土壙、竪穴住居跡、小穴を確認し、弥生時代後期と奈良・平安時代の遺物が出土している。遺構密度はかなり高く、少なくとも70,000㎡以上の面積を占める。Ⅱ群（50・51トレンチ）は、Ⅰ群から谷間を挟んで西方の棚田で、遺構は土壙、小穴を確認し、平安時代の遺物が出土している。面積は約2,000㎡ある。Ⅲ群（59トレンチ）は、Ⅱ群の北西に位置する畑地で、遺構は土壙を確認し、古墳時代の遺物が出土している。面積は約800㎡ある。Ⅳ群（61・62トレンチ）は、Ⅰ群から谷間を挟んで西方に位置する畑地で、遺構は土壙、溝を確認し、弥生時代～古墳時代の遺物が出土している。面積は約2,400㎡ある。Ⅴ群（67トレンチ）は、Ⅳ群の南東に位置する高畑で、遺構は土壙と小穴を確認し、中世前半の遺物が出土している。

図5　佐賀西部地区周辺地形図（1:100,000）

1	佐賀市（金立北部地区）	6	川副町（咾分地区）	①　下和泉一本椎遺跡	⑥忠兵衛屋敷遺跡
2	〃　（金立南部地区）	7	富士町（富士北部地区）	②　来迎寺遺跡	⑦修理田遺跡
3	〃　（兵庫南部地区）	8	多久市（本多久地区）	③若宮原遺跡	⑧岡遺跡
4	〃　（兵庫西部地区）	9	〃　（北町地区）	④西千布遺跡	
5	〃　（北川副地区）	10	〃　（南多久地区）	⑤友貞遺跡	

図６　佐賀市金立北部地区トレンチ配置図

Ⅵ群（73・75～90トレンチ）は、Ⅰ群南方の高畑と田面で、遺構は溝、土壙、小穴を確認し、中世前半～後半の遺物が出土した。面積は45,000㎡以上にのぼる。Ⅶ群（94・96トレンチ）は、Ⅵ群の西方に位置する棚田で、遺構は溝、土壙、小穴を確認し、中世前半の遺物が出土している。面積は約1,600㎡ある。

金立北部地区の確認調査では、洪積台地上面に弥生時代中期～中世後半期に至る広範囲で濃密な遺構の分布が確認でき、その面積は124,000㎡を上回った。

金立南部地区（図７）は、平成７年度県営圃場整備事業に伴い、佐賀市金立町大字千布の17haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、佐賀市北部の標高５ｍ程の低平な平野部で、部分的に高畑が点在する。対象地の大部分は弥生時代～中世の遺物散布地である西千布遺跡に含まれている。周辺では、東千布遺跡で弥生時代前期～中期の甕棺墓群が、久富遺跡では古墳時代初頭の集落が、友貞遺跡・千布二本黒木遺跡では中世の集落が確認されている。

調査は、水路・道路予定地及び高畑を中心に51ヶ所のトレンチを設定し、１～７・19・23・25・28～30・32・33・36～45・49～51トレンチで遺構を検出した。高畑が点在する対象地の北側では、古墳時代を中心とした集落が、南側の平坦地では平安時代～中世を中心とした集落が広がっているものと考えられる。遺構は、竪穴住居跡、土壙、溝、小穴等を検出した。特に高畑及びその周辺では遺構密度が高い。また４～６トレンチで検出した溝は、中世居館を区画する溝になる可能性もある。遺物は古墳時代～中世にかけての土師器、黒色土器等が出土している。

金立南部地区では、遺跡は古墳時代を主体とする地区と中世を主体にする地区に分けることができ、遺跡の広がりは、事業対象地のほぼ６割近くの約10haにのぼっている。

兵庫西部地区（図８）は、平成７年度農地還元資源理活用事業に伴い、佐賀市兵庫町大字下渕の43haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、佐賀市東部の標高3.3ｍ程の低平な平野部で、周辺にはクリークが縦横に走っている。対象地北側の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である淵川城跡の範囲に入っている他は未周知地区であり、埋蔵文化財の確認調査例は極めて少ない。

調査は、水路予定地を中心に58ヶ所のトレンチを設定し、その結果33～35・39トレンチで溝、土壙、小穴を検出し、中世から近世の土師器、磁器等が出土した。遺構が検出された箇所は、周辺がクリークに囲まれた「島」状の部分であり、小規模な居館が想定される。またこの地区は未周知であったため、「妙常寺北遺跡」、「妙常寺南遺跡」として周知化した。

兵庫南部地区は、干拓地等農地整備事業に伴い、佐賀市兵庫町大字瓦町の35haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、佐賀市東部の周辺にクリークが縦横に走る標高3.3ｍ程の低平な平野部であり、周知の埋蔵文化財包蔵地は含まれていない。水路予定地を中心に71ヶ所のトレンチを設定し、このうち３ヶ所から土壙状落ち込みと溝状の落ち込みを検出したが、この周辺に近・現代の「蔵」が建っていたこともあり、こららの落ち込みは近・現代のものである。その他は遺構・遺物とも検出されなかった。

北川副地区は、干拓地等農地整備事業に伴い、佐賀市北川副町大字新郷八田本村地内の12haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、佐賀市街地南東方、佐賀江川から南に水が抜ける八田江左岸の標高約２ｍの水田部に位置する。対象地内には周知の埋蔵文化財包蔵地は存在しないが、周辺には木原遺跡・袋遺跡などの中世の遺物散布地が点在する。また八田江沿いの八田宿は、江戸期に佐賀城下から川副下郷犬井道へ抜ける道沿いの街村で船着き場として栄えた。調査は、対象地に31ヶ所のトレンチを設定したが、顕著な遺構は確認できなかった。確認できた遺

図７　佐賀市金立南部地区トレンチ配置図

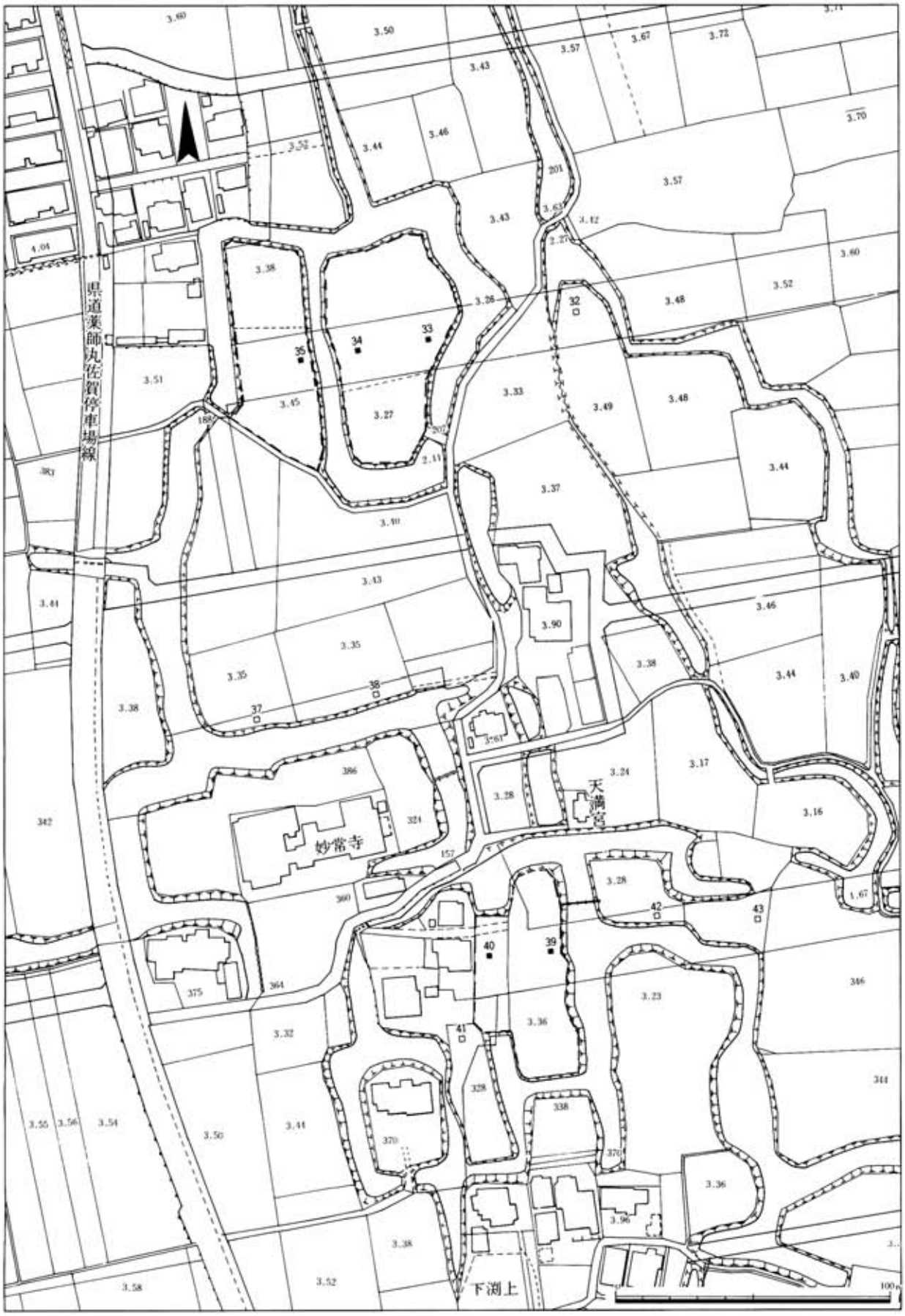


図８　佐賀市兵庫西部地区トレンチ配置図

構は、八田宿裏で昭和期に埋められた溝渠跡のみである。遺物は、５ヶ所のトレンチから古墳時代及び中世の土器片が出土したが流れ込みによるものである。北川副地区では顕著な遺構は確認できなかったが、周辺には小規模な生活遺構が存在する可能性がある。

（２）多久市（本多久地区、北町地区、南多久地区）

本多久地区は、県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴い、多久市多久町字岡の９haを対象に確認調査を実施したが、このうち４haは平成６年度分の追加工事対象地である。

調査対象地は、占野川と松瀬川に挟まれた標高約30～38ｍの水田である。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地に含まれていないが、周辺には縄文時代・弥生時代の遺物散布地である岡遺跡や九州横断自動車道（長崎自動車道）建設に伴い昭和57年度に調査が行われた旧石器時代・縄文時代の山王遺跡が分布する。

調査は、水田に40ヶ所のトレンチを設定し、このうち７・８・14・16・19～21・26・29トレンチで小穴、溝状遺構を検出した。７・８・トレンチの小穴および29トレンチから古墳時代の土師器が、14・16・19～21・26トレンチから縄文時代の土器・石器が出土しており、古墳時代および縄文時代の遺跡が確認された。このため岡遺跡の範囲を拡大し、周知化した。なお、平成６年度分の追加工事対象地に遺跡が含まれるため、遺構が削平される1,260㎡の発掘調査を平成７年１月10日から実施している。

北町地区は、農地等鉱害復旧事業に伴い、多久市北多久町大字小侍の3.2haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、柚木原川両岸の標高36～52ｍの水田部であり、周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていないが、周辺には旧石器時代と縄文時代の遺物散布地である経ノ峯遺跡がある。

調査は、水田に35ヶ所のトレンチを設定したが、表土から1.5ｍ下まで柚木原川の洪水を物語る層が重なっており、遺構は確認できなかった。遺物はサヌカイトの横長剥片と土師器の細片が出土しているが、いずれも流れ込みによるものである。

南多久地区は、農地等鉱害復旧事業に伴い、多久市南多久町字平原の1.2haを対象に確認調査を実施した。

調査対象地は、標高160～190ｍの狭い谷部に位置し、周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていないが、西方には旧石器時代・縄文時代の遺物散布地である天ヶ瀬遺跡がある。天ヶ瀬遺跡は、旧石器時代遺跡として著名な茶園原遺跡・三年山遺跡などと共に広範囲な多久尖頭器遺跡群に含まれている。

調査は、26ヶ所のトレンチを設定し行った。遺構は検出されなかったが、石器が数点出土しており、周辺の丘陵平坦地には遺跡の存在も想定される。

（３）その他の地区（川副町、富士町）

川副町は、咾分地区を団体営農村基盤総合整備事業に伴い、川副町大字咾分の13haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、川副町の南部標高約1.5ｍの沖積平野の水田部に位置している。対象地の北東約1.5㎞には、中世の集落跡・館跡である鹿ノ江遺跡、鹿ノ江城（館）跡がある。

調査は、水路として掘削される水田部に23ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

富士町は、富士北部地区を県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴い、富士町大字中原の1.2haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、標高約330ｍの尾根上にあるが、旧地形は比較的急な斜面と考えられ、現況では尾根を切り開

図9　多久市本多久地区トレンチ配置図

き水田及び畑地にしている。縄文時代の遺物散布地である中原遺跡に含まれ、遺跡の東方、神水川を挟んだ対岸の大野集落には中世の大野遺跡と、近世の大野代官所跡がある。また調査対象地南側の神社付近には「ヤカタドコロ（館所？）」の呼称も残っており、中・近世の館跡との関連もうかがえる。

調査は、4ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構は確認できず、遺物は客土中より縄文土器・土師器の小片、黒曜石・サヌカイトのフレイクが出土している。調査対象地は、旧地形等により遺跡は存在しないものと考えられるが、周辺については注意が必要である。

3．佐賀南部地区の調査

佐賀南部地区は、鹿島市、塩田町で確認調査を実施した。

鹿島市は、飯田地区を県営担い手育成基盤整備事業に伴い、鹿島市大字飯田の6haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、太良岳から延びる馬鞍状の尾根と尾根に挟まれた狭い谷地で、河川による侵食が著しい地域である。周辺には、飯田地区を挟んだ北と南の尾根の先端に縄文時代の遺物散布地である大崎遺跡、本浦遺跡がある。

調査は、飯田日当川両岸の標高20～50mの水田に57ヶ所のトレンチを設定して行ったが、河川の侵食が激しくまた頻繁に流路を変えていたと考えられ、遺構・遺物はともに検出されなかった。

太良町は、伊福地区を団体営農地還元資源利活用事業に伴い、太良町大字伊福字小浦の3haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、太良岳から派生する丘陵の裾部から南側の谷部へと続く段部にあたり、旧地形は比較的傾斜の緩い斜面であったと考えられる。調査対象地の北側尾根筋には伊福1～3号墳、伊福湯牟田古墳が点在する。伊福湯牟田古墳は横穴式石室を内部主体とする円墳であり、昭和63年（1988）に町史跡に指定されている。この他南側丘陵端部には奈良～平安時代の遺物散布地である椎木坂遺跡がある。

調査は、段部の水田4ヶ所にトレンチを設定したが、近世以降の染付小片1点が出土したのみで、遺構は検出されなかった。

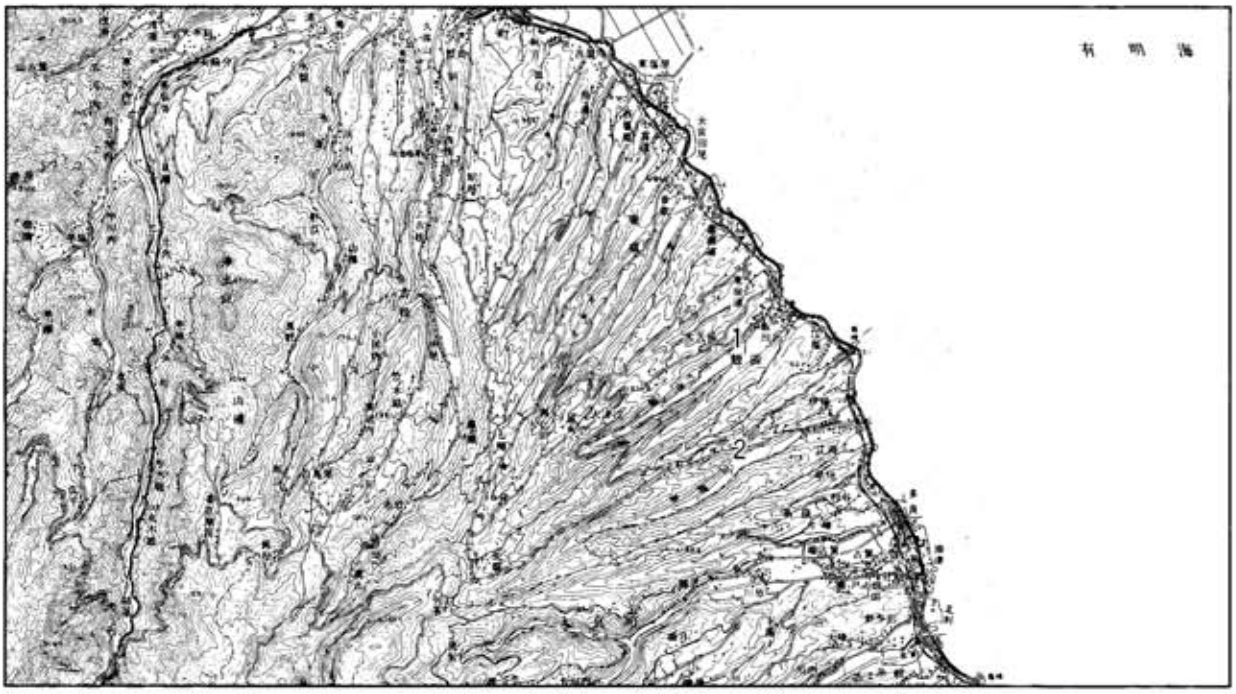


図10　佐賀南部地区周辺地形図（1:100,000）
1．鹿島市（飯田地区）　　2．太良町（伊福地区）

4．佐賀北部地区の調査

図11　佐賀北部地区周辺地形図（1:100,000）

1．伊万里市（久原地区）	5．伊万里市（脇野第２団地）	9．伊万里市（今岳団地）
2．　〃　（東分地区）	6．　〃　（中里地区）	10．　〃　（府招団地）
3．　〃　（城地区）	7．　〃　（木須団地）	11．　〃　（山倉地区）
4．　〃　（脇野団地）	8．　〃　（木須里団地）	12．相知町　（平山上地区）

（1）伊万里市（木須団地・木須里団地・脇野団地・脇野第2団地・今岳団地・府招団地・久原地区・東分地区・城地区・中里地区・山倉地区）

伊万里市では、国営伊万里地区総合農地開発事業に伴い、木須団地、木須里団地、脇野団地、脇野第2団地、今岳団地、府招団地、鉱害復旧事業に伴い久原地区、東分地区、城地区、県営圃場整備事業に伴い中里地区、農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業に伴い山倉地区の確認調査を実施した。

木須団地（図12）は、伊万里市木須町字真中の8.12haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、城古岳から派生した丘陵が矢竹川と接する標高8～23mの水田部で、周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていない。周辺には、中世の寺院関連遺跡の観音屋敷跡があり、伊万里湾沿岸部には近世の瀬戸塩田跡群がある。

調査は、工事により削平を受ける部分を中心に19ヶ所のトレンチを設定し行った。このうち19トレンチで、旧石器時代から縄文時代にかけての厚さ30～40cmの包含層を確認し、黒曜石製のナイフ形石器、スクレイパー、剥片などが出土している。また6トレンチでは明治期に掘られた炭鉱の縦坑を検出した。この縦坑は試掘用のもので、開発に際しては英国人鉱山技師モーリスが指導にあたっている。しかし石炭は産出されず、明治9年（1876）には田畑に復旧された。縦坑は、平面隅丸長方形で、規模は約7.5×4.3mある。包含層等を確認したため、真中遺跡として周知化した。

木須里（図13）団地は、伊万里市木須町字宮ノ前の2.8haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、木須川によって形成された扇状地上に位置する標高9.5～17mの水田部である。周辺の丘陵部には縄文時代の遺物散布地である烏越遺跡・宮ノ前遺跡・駄道遺跡や一部本調査により縄文時代から中世にかけての遺物包含層が確認された木須崎遺跡が分布している。

調査は、64ヶ所のトレンチを設定し行った。その結果、17トレンチで縄文時代の包含層を、18トレンチで古墳時代の包含層を、18・19トレンチで中世の柱穴を、20トレンチで中世の包含層を確認した。遺物は、17トレンチで縄文土器・石器が、18トレンチで古墳時代の土師器と中世の輸入陶磁器が、19・20トレンチで輸入陶磁器などが出土した。他のトレンチからも包含層や遺構に伴わないものの縄文時代や中世の遺物が出土しており、当初の遺跡の範囲はかなり広く、後世の水田開発によって削平を受けたものと考えられる。今回、新たに遺跡を確認したため、宮ノ前北遺跡として周知化した。

久原地区・東分地区・城地区は、国見山系から東に派生した丘陵の尾根上や丘陵に挟まれた扇状地及び急傾斜の谷地に立地した水田部が調査対象地区である。

久原地区は、伊万里市山代町大字久原の13haを対象に確認調査を行った。標高4～94mの水田部であり、調査対象地区の北側が縄文時代の遺物散布地である伊勢越遺跡に一部含まれ、また古墳時代の遺物散布地である小浪瀬遺跡と隣接している。

調査は、44ヶ所のトレンチを設定し行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

東分地区は、伊万里市山代町大字東分の8haを対象に確認調査を行った。標高140～240mの水田部であり、調査対象地区の大部分は、縄文時代～古墳時代の遺物散布地である上松遺跡と七田遺跡の範囲内にあり、また北側は縄文時代の遺物散布地である郷山遺跡と隣接している。

調査は、水田部に16ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

城地区は、伊万里市山代町大字城の10haを対象に確認調査を行った。標高46～191mの水田部であり、調査対象地区北側には縄文時代遺物散布地の狩場遺跡、東側には縄文時代～古墳時代の遺物散布地である北切遺跡・湯

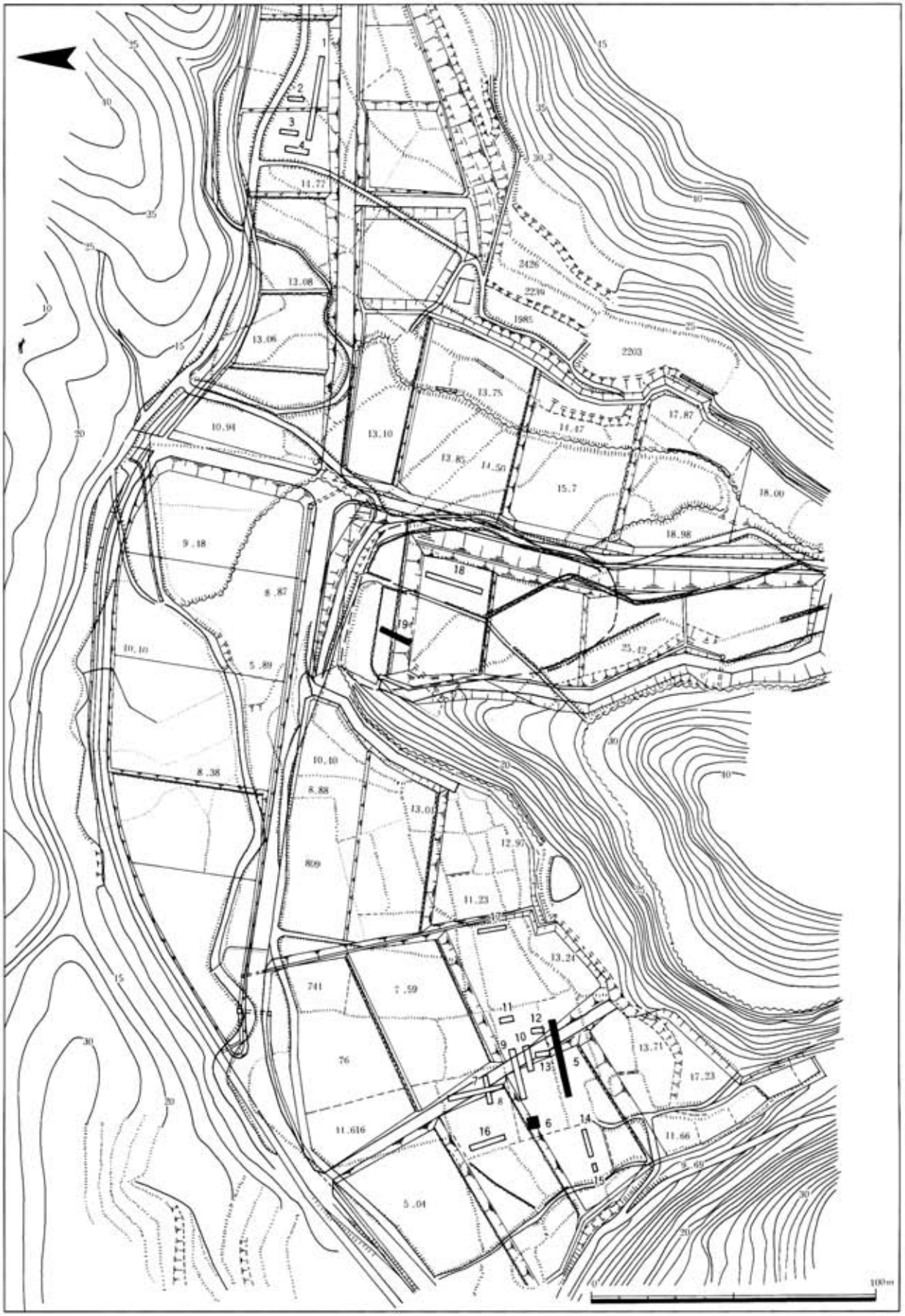


図12　伊万里市木須団地トレンチ配置図

谷遺跡、南側には縄文時代の遺物散布地である見原遺跡が分布している。

調査は、20ヶ所のトレンチを設定し行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

脇野団地は、伊万里市東山代町大字脇野の27haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、国見山系から北東に派生した標高45～100mの扇状地に立地しており、現状は棚田及び荒地である。調査対象地区西側の丘陵には、旧石器時代～縄文時代の岩陰遺跡である白蛇山岩陰遺跡があり、昭和46年（1971）及び48年（1973）年に佐賀県立博物館により調査が行われ、昭和59年（1984）に佐賀県史跡に指定されている。

調査は、31ヶ所のトレンチを設定して行ったが、このうち4ヶ所のトレンチで旧地形の落ち込みを確認した他は遺構・遺物ともに検出できなかった。

脇野第2団地は、伊万里市東山代町大字脇野字高ノ峯の19.96haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、烏帽子岳から派生した丘陵と丘陵の間に広がる谷水田に立地している。烏帽子岳から派生した丘陵上には遺跡が点在しており、縄文時代の遺物散布地である長谷平遺跡や中世の和田城跡などがある。

調査は、22ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

中里地区は、伊万里市二里町字吉野の3haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、有田川の西岸及び有田川の支流吉野川の南岸の河岸段丘上に立地した、標高20～41mの水田部である。調査区北側はと南側は縄文時代～弥生時代の遺物散布地である中里一本杉遺跡と吉野遺跡にそれぞれ隣接している。

調査は、23ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

今岳団地は、伊万里市大坪町大字中道乙の16haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、今岳から派生した標高30～126mの丘陵上に位置し、現状は山林、果樹園、畑、水田である。調査対象地区内には、丘陵上を中心に縄文時代の遺物散布地である憩場遺跡・梅木谷遺跡・糸屋敷遺跡があり、周辺にも今岳原遺跡・柏別遺跡・前山遺跡などの縄文時代の遺物散布地が分布している。

調査は、93ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。調査対象地区は地形からみて遺跡の存在がうかがわれるが、明治43年（1910）に耕地造成が行われており、その時点でかなり削平を受けていると考えられる。

府招団地は、伊万里市南波多町大字府招の5haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、標高64～72mの丘陵上に位置し、現況は山林である。調査対象地区の一部は、縄文時代の遺物散布地である船川遺跡や中世の山城である椎峰城跡の範囲に含まれている。

調査は、山城の曲輪と想定される部分を中心に11ヶ所のトレンチを設定して行ったが、明確な遺構は確認できず、遺物も出土しなかった。

山倉地区は、伊万里市大川町東田代の農道予定区間250mを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、八幡岳から派生した丘陵の西側斜面に位置した標高約320mの山林及び水田であり、隣接地の丘陵上には中世の遺物散布地である田代遺跡がある。

調査は、田代遺跡の隣接地を中心に8ヶ所のトレンチを設定したが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

（2）相知町（平山上地区）

相知町は、平山上地区（図14）を県営中山間地域農村活性化総合整備事業に伴い確認調査を実施した。

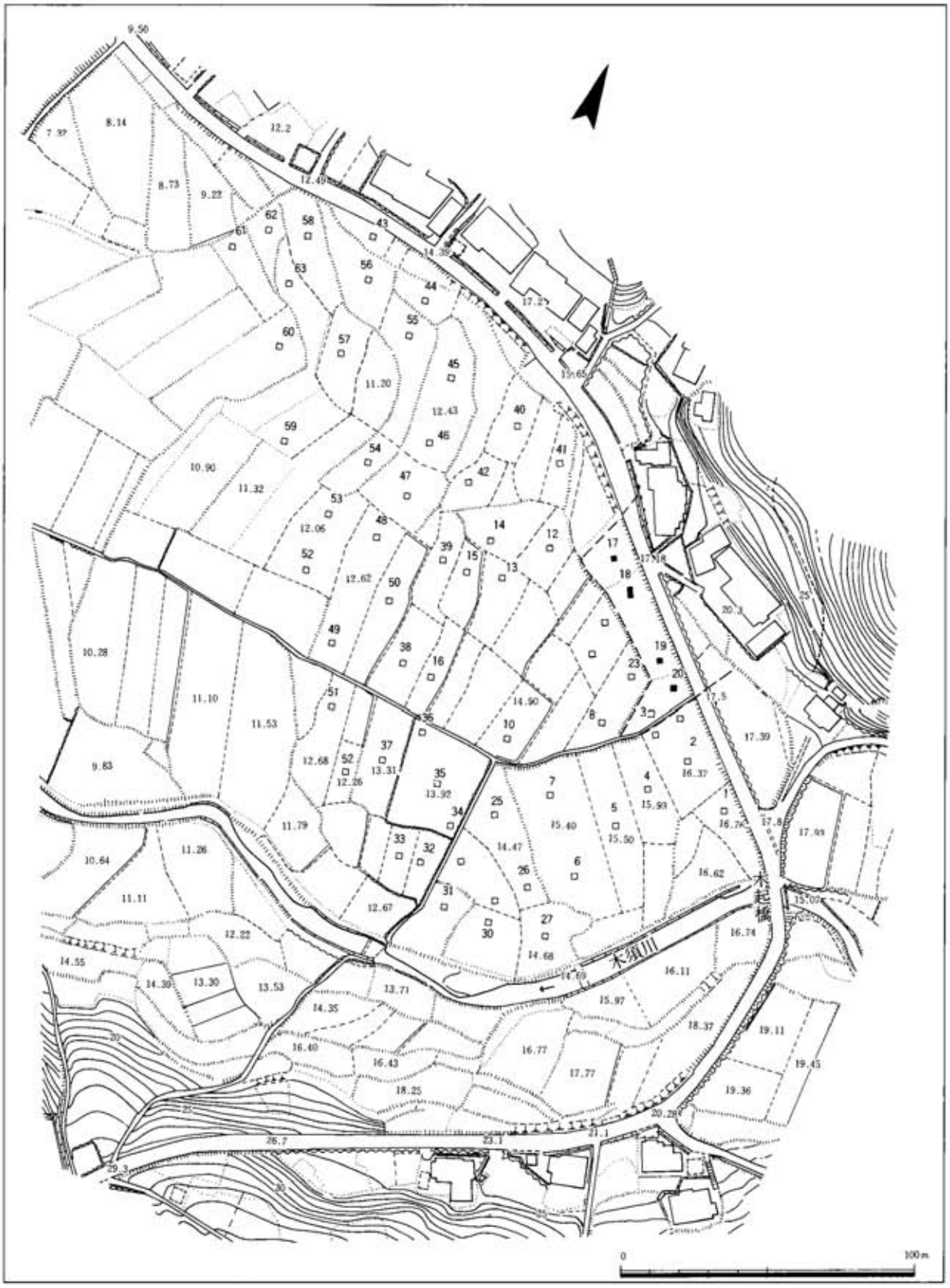


図13　伊万里市木須里団地トレンチ配置図

図14　相知町平山上地区トレンチ配置図

調査は、東松浦郡相知町大字平山上の10haを対象に行った。

調査対象地区は、八幡岳から北に流れ出す松浦川の支流平山川が作る谷底平野部に位置する。調査対象地区内には周知の埋蔵文化財包蔵地は含まれていないが、周辺では、谷底平野部の微高地を中心に縄文時代の遺物散布地である原田遺跡や中世の遺物散布地である岩本遺跡が、また谷に北面する丘陵上には縄文時代や弥生時代の遺物散布地である西谷遺跡・受泉寺遺跡・尾部田遺跡などが分布している。

調査は、水田部に22ヶ所のトレンチを設定し行った。このうち平山川北側の水田部に設けた9トレンチからピット・溝状遺構を、10トレンチから遺構と考えられる大きな落ち込みを検出し、9トレンチのピットから中世の土師器が出土した。9・10トレンチを設定した水田は、北側の山地から舌状に延びる尾根の先端部にあたり、現在の水田面は平坦であるが、その下に舌状の比較的良好な基盤層が存在するものと考えられる。この9・10トレンチ付近を中心とした約1,200㎡を平山上遺跡として周知化した。なお、平山上遺跡の取扱いについては、町及び県農林担当課と協議を行った結果、設計変更し盛土による保存を行うことになった。

5．佐賀上場地区の調査

（1）唐津市〔上場地区（雲透地区）・上場Ⅱ期地区（湊大山地区・支線道路4号八幡ー馬部線）〕

上場地区は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い雲透地区（図16）で確認調査を実施した。

調査は、唐津市湊の2haを対象に確認調査を行った。

唐津市西部に位置する湊一帯は、上場台地の縁端が急激に落ち込んだ海岸部にあたり、開析谷に延び出す低丘陵と海流によって形成された砂丘と後背湿地上にあり、調査対象地区は開析谷の南斜面に立地する。周辺の遺跡は地形的にも様々な様相がみられ、台地では十連遺跡などの旧石器～縄文時代の遺跡が数多く分布する一方、近年の調査で湊中野遺跡・上場松尾後遺跡・上場柴尾遺跡から弥生時代後半～古墳時代前半の集落遺構も確認されている。雲透地区に隣接して湊鼓古墳群があり、砂丘上には鎌倉～室町時代の館跡として多量の遺物を出土した湊松本遺跡がある。

調査は、25ヶ所のトレンチを設定し行った。その結果、18～23トレンチから良好な弥生時代の包含層を確認し、遺構の存在が予想できた。遺物は、19トレンチから弥生中期の土器片、18トレンチから土錘・黒曜石片、20・22・23トレンチから黒曜石片が出土した。18～23トレンチについては、弥生時代の遺跡の広がりが想定できる。

上場Ⅱ期地区は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い湊大山地区で、また支線道路4号八幡ー馬部線に伴い確認調査を実施した。

湊大山地区は、唐津市湊の0.5haを対象に確認調査を行った。

調査対象地は、標高28～44ｍの上場台地の開析谷と台地の境にあたる谷水田部である。

調査は、6ヶ所のトレンチを設定し行ったが、土層状況から全体的に耕地造成による削平、盛土が認められ、かつてはかなり急峻な傾斜地であったと考えられる。表土層から流れ込みによる近世以降の陶磁器片が出土した他は遺構・遺物とも検出できず、遺跡の存在は認められなかった。

支線道路4号八幡ー馬部線（図17）は、唐津市佐志浜町から唐津市枝去木字草履作までの農道であり、調査対象地は上場台地の縁辺部にあたる。周辺を含めた台地上には旧石器～縄文時代の遺跡が数多く点在し、調査対象地区内には八幡溜遺跡・黒龍遺跡が、周辺には近年調査された草履作遺跡・枝去木山中遺跡・馬部甚蔵山遺跡・笹ノ尾遺跡群などがある他、文禄・慶長の役に際し築かれた肥前名護屋城への太閤道と呼ばれる古道が通り、八

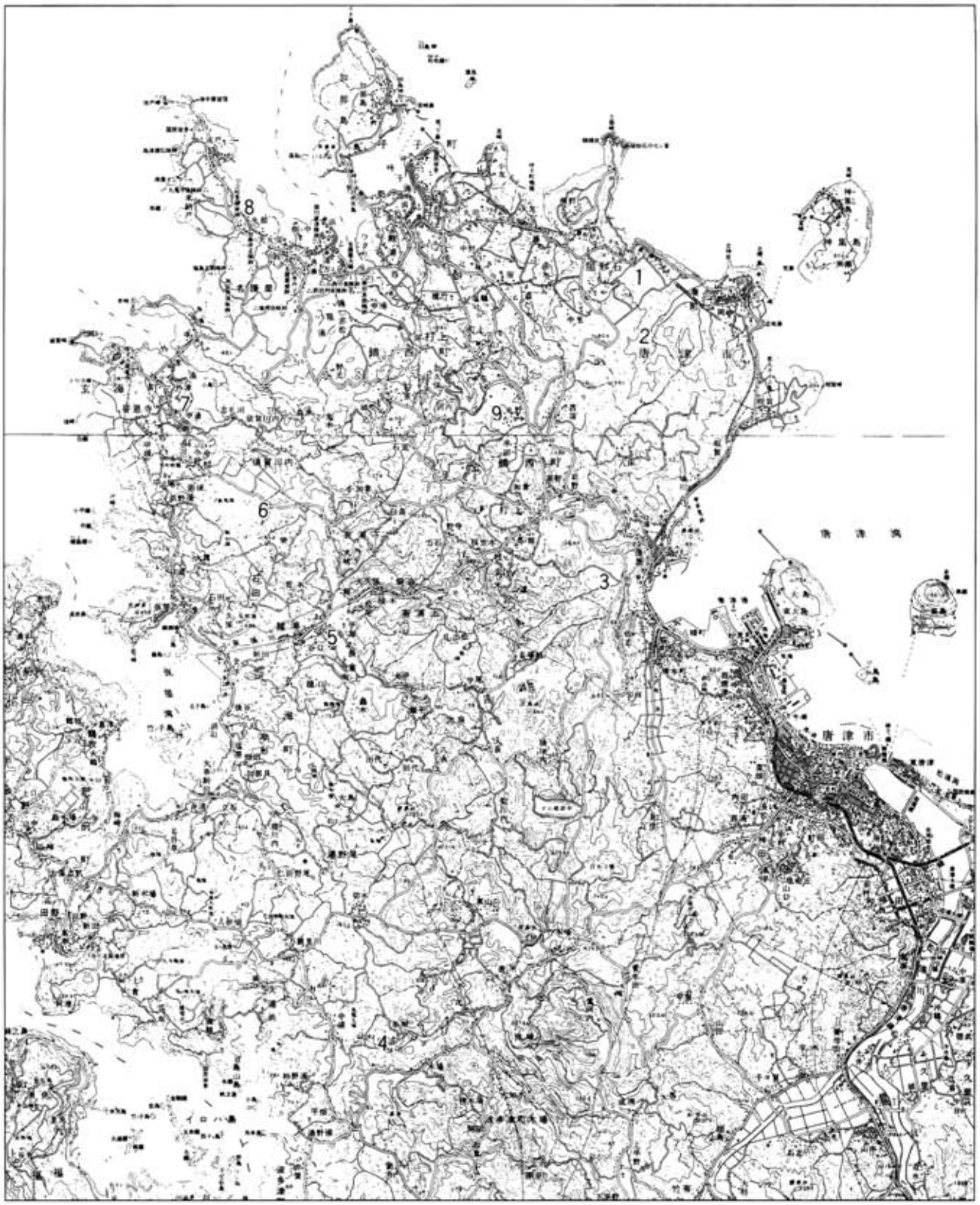


図15　佐賀上場地区周辺地形図（1:100,000）

1．唐津市〔上場地区（雲透地区）〕
2．　〃　〔上場Ⅱ期地区（湊大山地区）〕
3．　〃　〔　〃　（八幡ー馬部線）〕
4．肥前町〔上場Ⅲ期地区（赤坂地区〕
5．玄海町〔上場Ⅳ期地区（長倉地区）〕
6　〃　〔　〃　（棚橋地区）〕
7．〃　〔　〃　（大橋地区）〕
8．鎮西町〔上場地区（麦原地区）〕
9．　〃　〔　〃　（打上丸野地区）〕

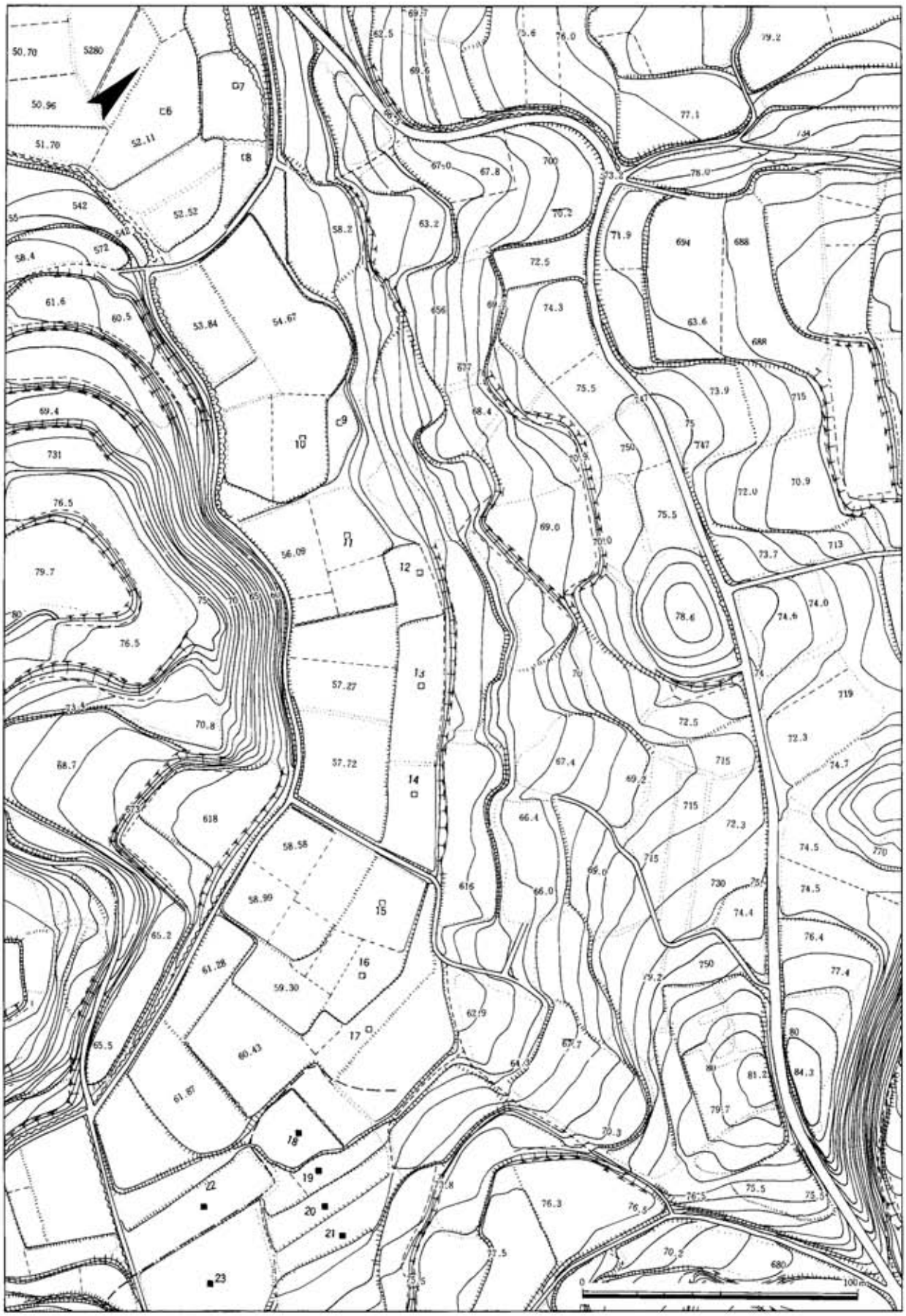


図16　唐津市上場地区（雲透地区）トレンチ配置図

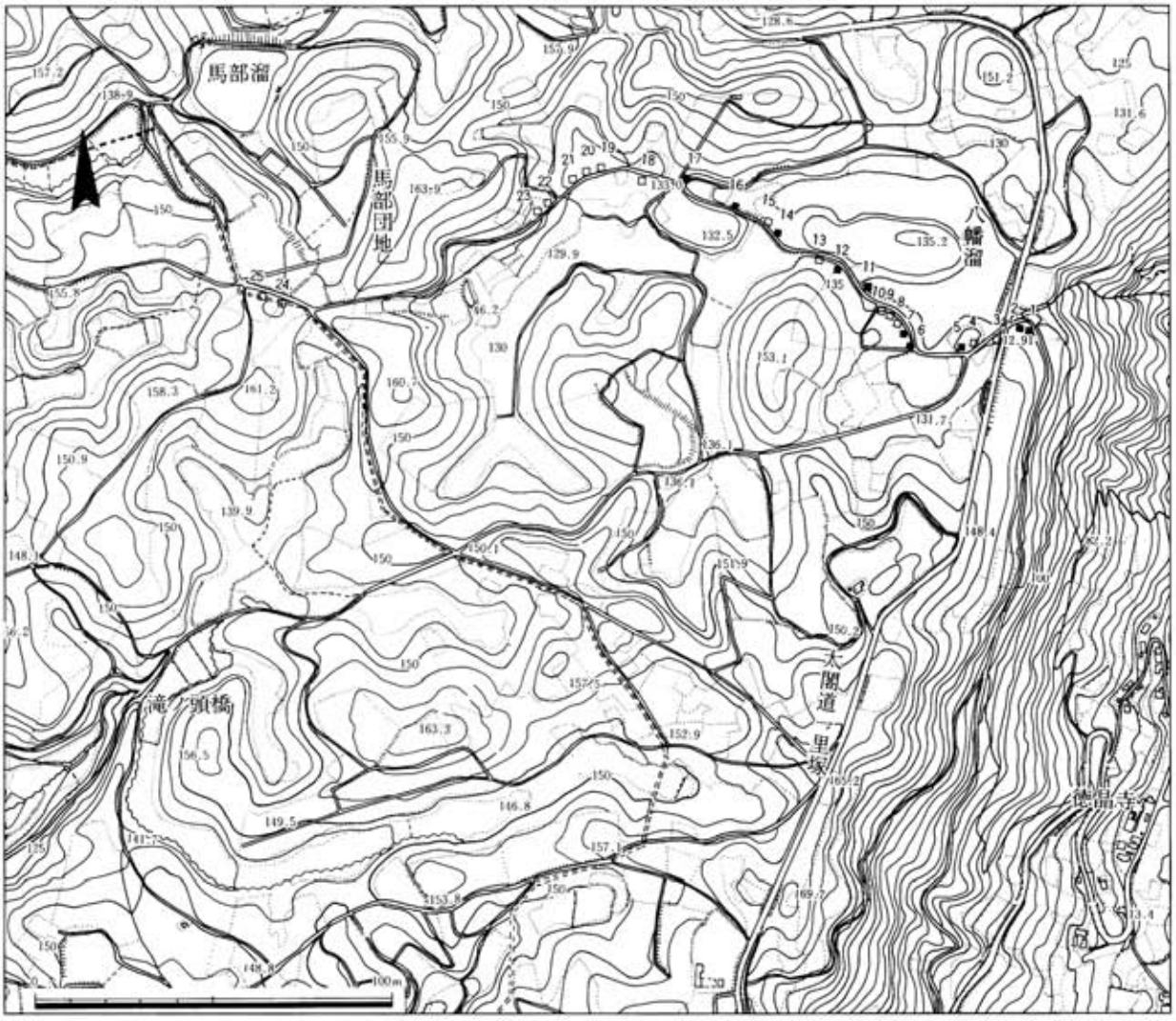


図17　唐津市上場Ⅱ期地区（支線道路４号八幡ー馬部線）トレンチ配置図

幡溜南には太閤一里塚が建てられている。また佐志地区の下場には、縄文時代中期からの空白の時期を埋めつつある徳蔵谷遺跡がある。

調査は、当初25ヶ所のトレンチを設定して行う予定であったが、未承諾などにより19ヶ所に減った。調査の結果、１・２・５～７・11・12・14・16・17トレンチから旧石器時代～縄文時代の遺物が出土した。そのほとんどが黒曜石であるが、このうち７トレンチから三稜尖頭器が、12トレンチから縄文土器が出土している。また１・２・７・12･17トレンチは良好な包含層が残っている。

（２）肥前町〔上場Ⅲ期地区（赤坂地区）〕

上場Ⅲ期地区は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い赤坂地区（図18）の確認調査を実施した。

調査は、東松浦郡肥前町大字赤坂の1.7haを対象に行った。

赤坂地区は、東松浦半島の南、伊万里市境に接する標高約180ｍの上場台地上にある。調査対象地区は、丘陵部の先端とその丘陵部から落ち込む谷部であり、丘陵地は荒地、谷部は水田になっている。調査対象地の一部は縄文時代の遺物散布地である丸尾Ⅱ遺跡があり、周辺にはいずれも縄文時代の遺物散布地である丸尾Ⅰ・Ⅲ遺跡、

赤坂Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。

調査は、10ヶ所のトレンチを設定し行った。このうち、8トレンチから不整形の土壙を1期検出し、黒曜石片が出土した。10トレンチから黒曜石片の他縄文土器が出土した他、付近の畑からナイフ形石器を表採した。この結果、北側丘陵部の先端には石器・縄文土器が出土する包含層があり、付近の踏査等とあわせて、北側丘陵部には旧石器時代～縄文時代の遺跡が存在すると考えられる。

（3）玄海町〔上場Ⅳ期地区（長倉地区・棚橋地区・大橋地区）〕

上場Ⅳ期地区は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い長倉地区・棚橋地区・大橋地区で確認調査を実施した。

長倉地区（図19）は、東松浦郡玄海町大字長倉の0.13haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、上場台地から西流して仮屋湾に注ぐ有浦川の右岸、標高7～9mの畑地である。周辺には中世の高江城跡や近世の諸浦窯跡があり、諸浦窯跡は、町内唯一の窯跡であり、町史跡に指定されている。

当地区については、平成2年度に一度確認調査を実施し、水路予定地に弥生時代の石棺墓が検出されたため、保存を前提として水路の変更を実施してきた地区であるが、有浦川の護岸堤防との高さ調整などから全体的に現地表面から削平する計画があがったため、再度確認調査を実施したものである。

調査は、石棺墓付近を中心に8ヶ所のトレンチを設定し行った。石棺墓の他、3トレンチから大小の礫を敷き詰めた石敷遺構が検出された。石敷遺構は、上面が全体的に揃い、人為的なものである。また1トレンチからは玉石が検出され、石敷遺構との関連性をうかがわせる。1・3トレンチからは13世紀～14世紀にかけての中国・朝鮮製の陶磁器類が出土している。この他2・4・5～7トレンチでは、縄文土器片や黒曜石片等が出土したが、遺構は検出できなかった。この結果、縄文時代の遺物は出土するものの遺構面は後世に削平された可能性が高いが、弥生時代及び中世の遺構の広がりは確認できた。特に中世の遺構は、松浦党の有浦氏との関連から注目される遺構である。

棚橋地区は、玄海町大字今村字棚橋の0.7haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、上場台地北西部の標高104～124mの丘陵部で、現在は山林、畑地及び原野になっている。周辺には、縄文時代の遺物散布地である大橋遺跡、棚橋遺跡がある。

調査は、工事で削平を受ける部分を中心に15ヶ所のトレンチを設定し行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

大橋地区は、玄海町大字今村字大橋の1.37haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、上場台地の北西部の標高105m前後の丘陵部で、現在は原野及び畑地になっている。調査対象地区は、周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、縄文時代の遺物散布地である大橋遺跡が北側に隣接している。

調査は、工事で削平を受ける部分を中心に7ヶ所のトレンチを設定し行った。周辺の畑地や一部のトレンチの表土に黒曜石が散布しているが、遺物包含層は認められず、後世の畑地造成で削平された可能性が高い。

（4）鎮西町〔上場地区（麦原地区・打上丸野地区）〕

上場地区は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い麦原地区・打上丸野地区で確認調査を実施した。

麦原地区（図20）は、東松浦郡鎮西町大字名護屋字飯塚の0.4haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、上場台地の北部にあり、丘陵と丘陵に挟まれた谷状の水田部に位置する。この一帯は、文禄・慶長の役に際し肥前名護屋城跡とともに築かれた全国諸大名の陣屋の跡が数多く分布しており、調査対象地

図18　肥前町上場Ⅲ期地区（赤坂地区）トレンチ配置図

図19　玄海町上場Ⅳ期地区（長倉地区）トレンチ配置図

に隣接する北及び東の丘陵には、蒲生氏郷、加藤光泰に比定された陣跡がある。また、調査対象地西側一帯は、佐賀県立少年自然の家建設に伴い平成５年度～６年度にかけて、氏家行広陣跡、足利義昭陣跡、ウシロド遺跡、フナゼ遺跡の発掘調査が行われ、氏家行広陣跡では、陣屋を囲む空堀跡、石組の暗渠、二十数軒の掘立柱建物跡や玉砂利敷きの通路が確認され、大きな成果をあげている。

調査は、６ヶ所のトレンチを設定し行ったが、１トレンチと４トレンチ下層から敷き詰めたような礫群が検出されたが、周辺の地形や深さから陣跡関連のものとは考え難く、水田を作る際の基盤と思われる。遺物は、名護屋城期の陶器片が１トレンチから、他のトレンチから土器片や近世以降の陶磁器片などが出土しているが、いずれも流れ込みと考えられる。

打上丸野地区は、鎮西町大字打上字丸野の10haを対象に確認調査を行った。

調査対象地区は、丸渕川流域の標高約70ｍの傾斜地に位置し、４ヶ所のトレンチを設定したが、近世以降の陶磁器片が数点出土した他は、遺構・遺物ともに検出できなかった。

６．筑後川下流用水事業に係る調査

水資源開発公団（筑後川下流用水建設所）による筑後川下流用水事業に係る確認調査は、大詫間幹線水路の諸富第５工区、小杭用水機場、佐賀東部導水路の三田川中部第２工区、六津崎・三根分水工、北茂安西部第４－２工区、北茂安東部第６－２工区について確認調査を行った。

（１）佐賀東部導水路（城原川以西）・大詫間幹線水路

諸富第５工区（佐賀郡諸富町大字大堂：確認調査対象面積607.5㎡）及び小杭用水機場（諸富町大字大堂：確認調査対象面積920㎡）は、佐賀平野の南東部、筑後川・佐賀江川などの大小の河川に囲まれた標高２～３ｍの沖積平野である。当該地区は小杭屋敷遺跡（弥生・近世）の中にあるが、今回の調査では遺構・遺物は検出できなかった。また、下層では有明粘土層と呼ばれる青灰色系の粘土層が見られた。クリークを挟んだ北側には、小杭村中遺跡・土師本村遺跡・太田本村遺跡などがある。

（２）佐賀東部導水路（城原川以東）

三田川中部第２工区（神埼郡三田川町大字田手：確認調査面積1,215㎡）は、田手川の東岸、標高8.9～9.1ｍの水田部にある。調査は、７ヶ所のトレンチを設定して行ったが、遺構・遺物ともに検出できなかった。

六津崎・三根分水工（三養基郡上峰町大字坊所：確認調査対象面積588㎡）は、切通川の西岸標高５～６ｍの水田部である。当該地は、平成３年度に調査が行われた坊所三本松遺跡の南側にあたるが、遺構・遺物の検出はできなかった。また、トレンチの下層では黒色の植物腐植土の堆積が見られたことから、本来は沼地であった可能性が考えられる。

北茂安西部第４－２工区（三養基郡北茂安町大字中津隈：確認調査対象面積380㎡）は、切通川の西岸標高４～５ｍの水田部である。ここでは、トレンチの下層において植物腐植土は見られたが、遺構・遺物は検出できなかった。北茂安東部第６－２工区（北茂安町大字東尾）は、切通川・筑後川・寒水川等の周辺河川によって形成された標高４～６ｍの水田部である。当該地では遺構・遺物ともに検出できなかったが、トレンチの下層において旧河川もしくは氾濫原と考えられる砂層が見られた。

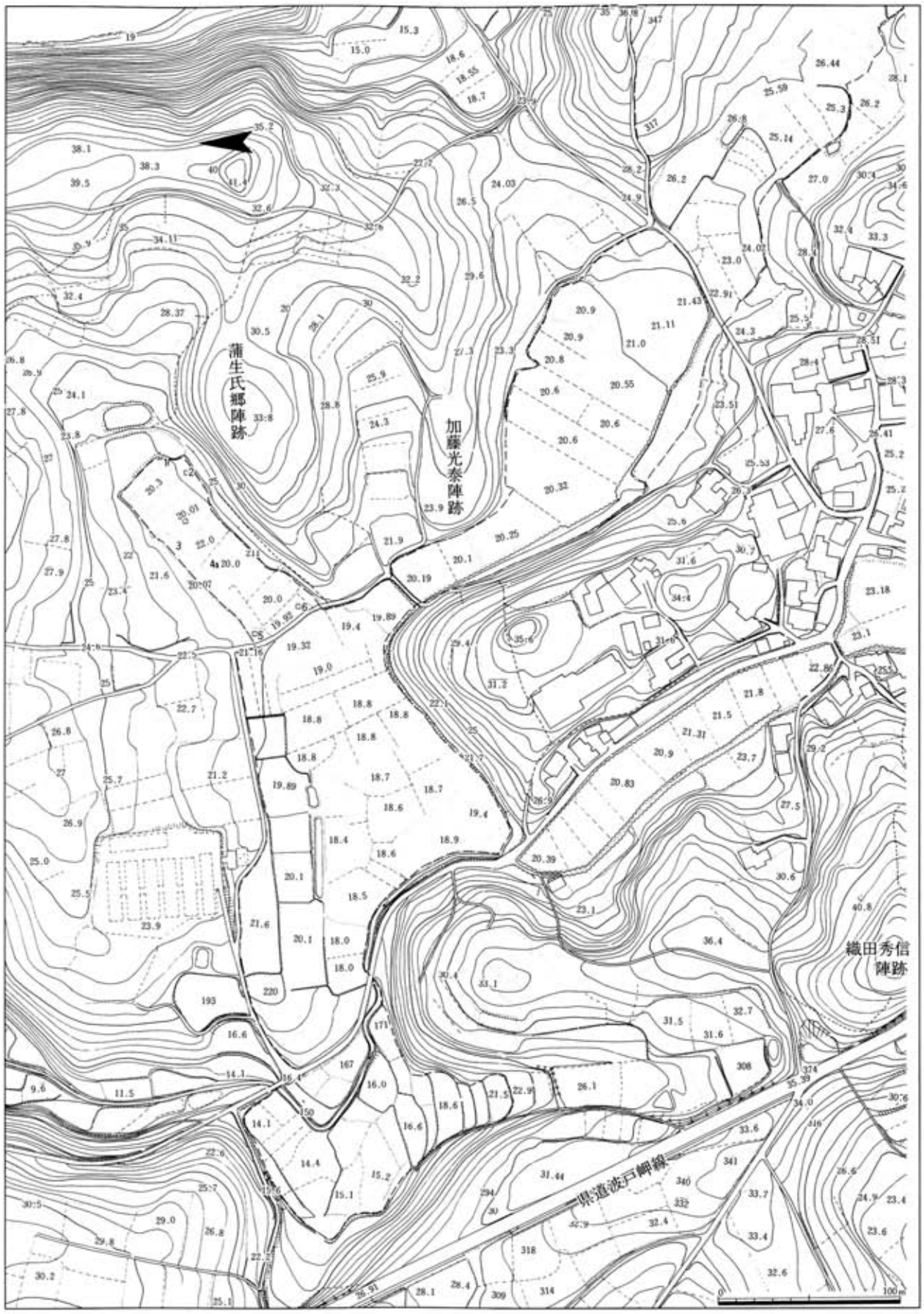


図20　鎮西町上場地区（麦原地区）トレンチ配置図

Ⅲ　平成６年度発掘調査の概要

１．四阿屋遺跡（略号：ＦＡＺ）

遺跡の所在地

　鳥栖市牛原町字井川口

調査主体者

　鳥栖市教育委員会

調査期間

　平成６年５月～９月

調査面積

　4,875㎡

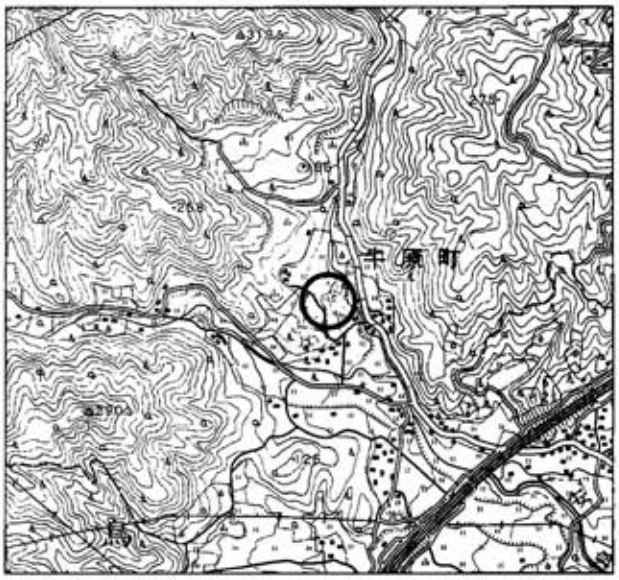


図21　四阿屋遺跡位置図

遺跡の概要

四阿屋遺跡は、城山山麓に源を発する安良川左岸の丘陵や段丘上に立地する。調査地点は標高約71ｍ～90ｍの段丘面で、７区に分かれる。１～５区が標高71～75ｍの段丘面、６区が四阿屋神社西の標高約90ｍの段丘上、７区が四阿屋神社北東背面の標高86ｍの丘陵上である。以下、調査区毎に遺構・遺物の概要について説明する。

１～３区　一部柱穴と考えられるピットや性格不明の溝が検出された。遺物としては土師器の皿、白磁の小片、須恵器片などが出土した。しかし、いずれも少量でまた遺構との明確な関連をうかがうまでには至らなかった。

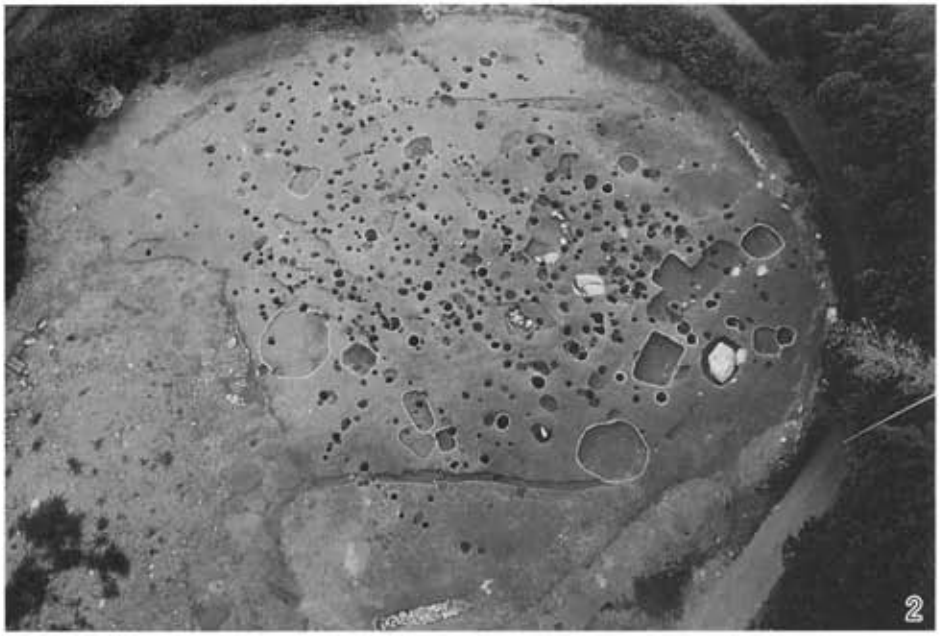
４区　上部削平が著しく、わずかに中世～近世にかけての土器片が出土したのみであった。

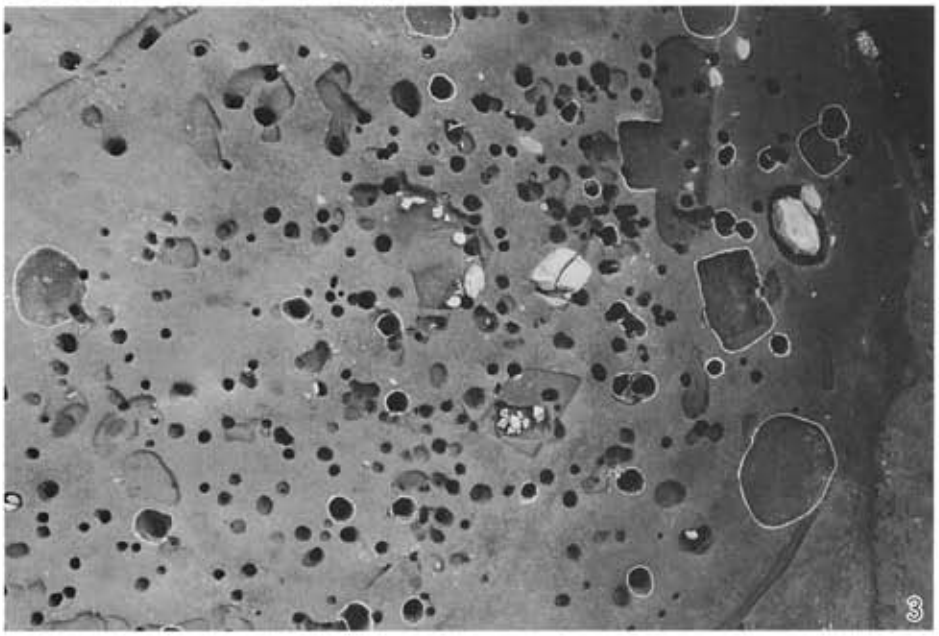
５区　調査区はＡ－１区、Ａ－２区の２地点に分けられる。このうち、Ａ－１区で性格不明のピットや土壙が検出された。ピットのうちいくつかは掘立柱建物跡の柱穴と考えられるものがあったが、かなり削平をうけており確定するには至らなかった。遺物は、土師器・須恵器・白磁の細片が出土したのみである。

６区　調査区は２区に分けられる。このうち、Ｃ－１区は過去の採石のため、遺跡は消滅していた。Ｃ－２区も畑地造成により大半が削平されていたが、一部に柱穴と思われるピットや中世の土鍋片などが出土した。

７区　溝２～３条、10数基の土壙、多数の柱穴などが検出された。これらの遺構のうち溝は屋敷に伴う可能性が高く、柱穴は掘立柱建物跡と考えられた。また、これらの遺構面は焼けており、柱穴には灰が充満しており火災にあったことがうかがわれた。遺物は15～16世紀の朝鮮青磁、中国青磁、土師器の土鍋・こね鉢などが出土した。この７区は、遺構・遺物の性格や四阿屋神社に隣接する平場であることから、中世四阿屋神社関連の施設があった公算が高いと考えられた。

以上１～７区の遺構・遺物について概観した。いずれも中世を主体とする遺構・遺物で、四阿屋遺跡は勝尾城下町の域内に位置し、古代以来の古社四阿屋神社に隣接することから、これらに関連する遺跡であると考えられる。





図版1　四阿屋遺跡

1．1～3区全景
2．7区全景
3．7区柱穴・土壙検出状況

2．立石惣楽遺跡（略号：ＦＴＳ）

遺跡の所在地

鳥栖市立石町字野副、惣楽

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

平成６年５月２日～平成７年３月31日

調査面積

16,830㎡

図22　立石惣楽遺跡位置図

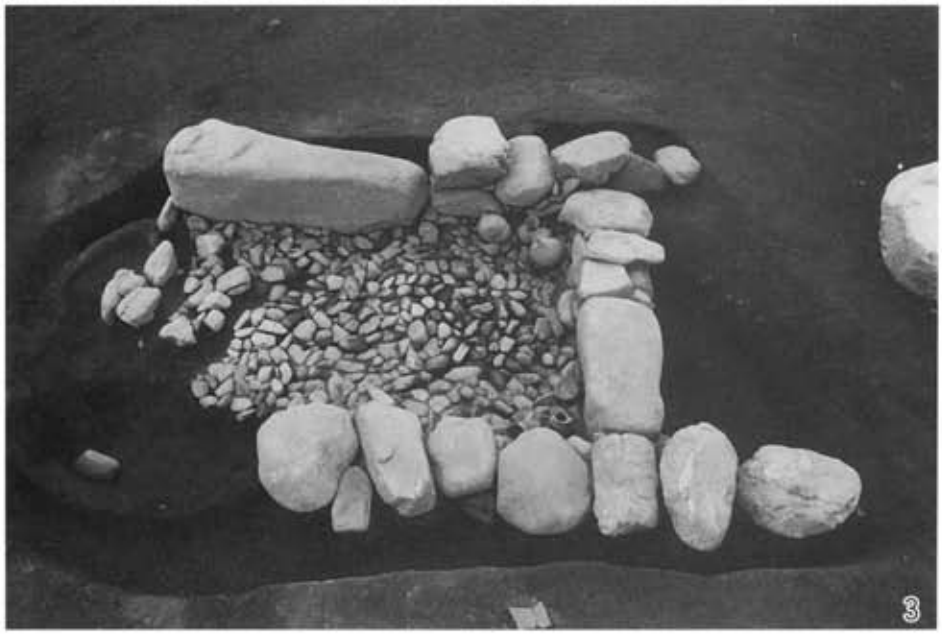
遺跡の概要

遺跡は標高約42～46ｍの沼川上流域の右岸に位置する。調査区は大きく４区に分けられる。１区から縄文時代後期～晩期の包含層・集石等、古墳時代後期の群集墳、２区からは平安時代前期の集落跡、４区からは中世の溝跡、土壙、小穴等を検出している。３区からは顕著な遺構が検出されなかった。なお、県道を挟んで西側は平成４年度の調査で古墳時代後期の古墳１基や古代の集落跡を検出し、墨書土器等が出土している。

縄文時代の遺構は、集石８基、土壙２基を検出した。あとは遺物包含層である。遺物は土器片、石器類や剥片が約3,000点程出土している。土器は黒川式磨研の浅鉢や条痕文などの粗製鉢類、組織痕土器の深鉢など晩期に属するものが大部分を占める。

この縄文包含層に重複して古墳を14基検出した。このうち10基で石室を確認しているが、いずれも腰石から下が僅かに残存する程度で、外部施設ともに破壊・削平が著しいものばかりである。時期は５世紀末～６世紀前半の古墳が７基、あとは６世紀後半～末である。平面的規模は周溝内径が16ｍ程のもの１基のほかはいずれも10ｍ前後の小円墳である。遺物は須恵器・土師器等の土器類、鉄鏃や鉄刀子などの金属製品、硬玉製勾玉やガラス製丸玉・小玉、耳環などの装身具類などがあるが、とくにどの古墳かは特定できなかったものの、３環の鈴杏葉が１点２次堆積から出土しているのが注目される。また、ＳＴ10古墳は上部が崩壊していたものの、石室床面は供献土器や金属製品が埋葬時のままの状態で検出しており、このうち土師器の小壺の中に朱が詰められていたのが興味深い。

２区から検出された９軒の竪穴住居跡は、いずれも比較的小規模な住居で各戸に竈をしつらえている。時期は平安時代前期である。遺物は土器類のほか、緑釉陶器の皿や須恵器の高台を再利用した硯が出土しており、一般的な庶民の住居のイメージとは異にする。



図版２　立石惣楽遺跡
１．１区全景
２．ＳＸ０９集石
３．ＳＴ０１古墳

3．本村遺跡（略号：HON）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字蓑原字本村

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成６年４月20日～平成７年３月31日

調査面積

3,800㎡

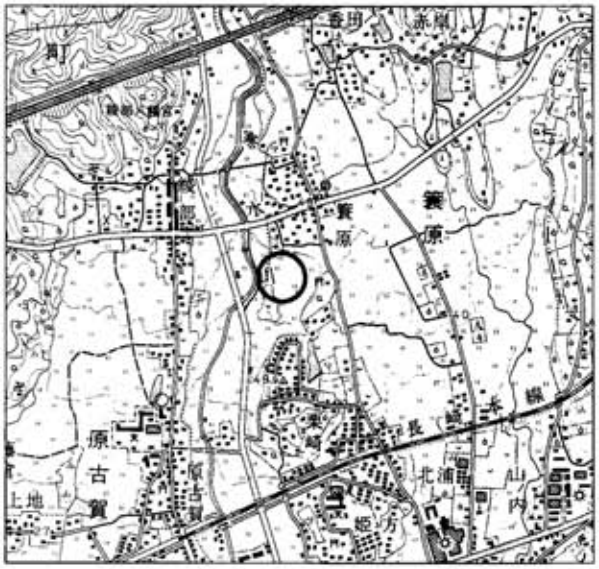


図23　本村遺跡位置図

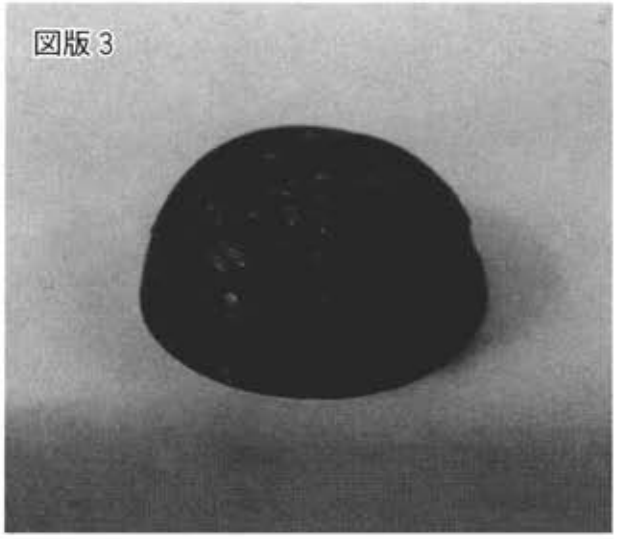
遺跡の概要

本村遺跡は脊振山系から南に延びる丘陵上に位置する遺跡である。調査は、水路及び掘削される部分を行い、Ⅰ区からⅥ区までで弥生時代及び中世の集落跡、古墳群、古代の道路状遺構を確認した。

弥生時代の遺構には、竪穴住居跡、溝があり、いずれも後期のものである。溝内から在地の土器に混じって瀬戸内系の高杯や二重口縁の壺などが出土した。

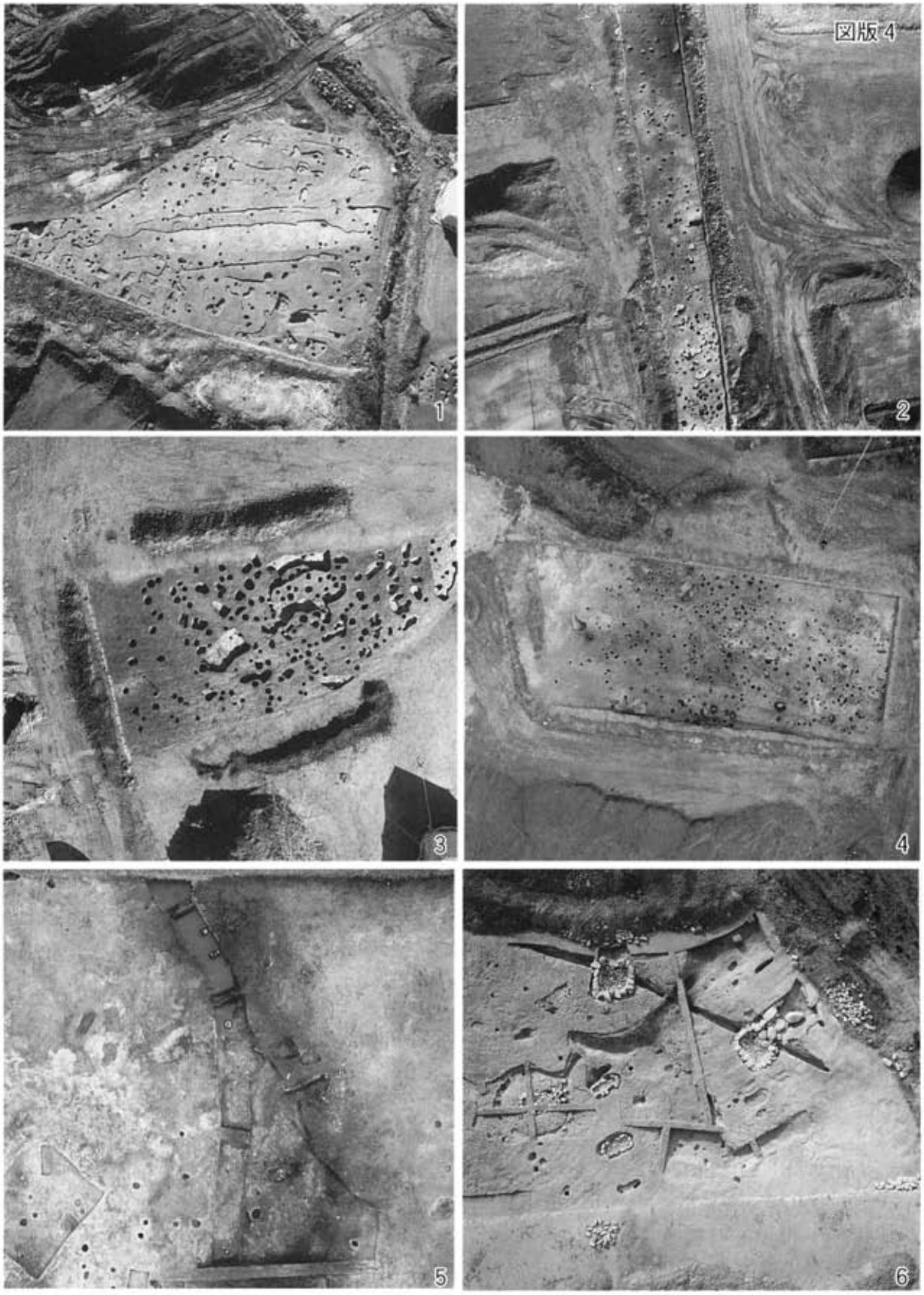
古墳は５基確認され、１～３号墳が竪穴式石室、４・５号墳は横穴式石室である。４号墳は一辺が10ｍほどの方墳で、銅椀、銅鏡、鉄刀、馬具、弓金具、鉄釘などが出土し、このうち銅椀は県内でも出土例が少なく貴重な資料である。５号墳は径10ほどの円墳で、須恵器の杯・平瓶、土師器の杯、馬具、水晶玉が出土した。また竪穴式石室の内２基からは耳環が出土している。古墳群の築造時期は周溝の出土遺物などから６世紀中頃と考えられ、追葬が７世紀後半まで行われている。古代の道路状遺構は、両脇に幅20cmほどの浅い溝が平行して東西に伸びており、その可能性が高い。

中世の遺構には、土壙、溝、小穴があり、土壙から土師器の皿や青磁の皿が出土した。



図版３　本村遺跡４号墳出土　銅椀

今回の調査では、弥生時代や中世の集落の広がりが明らかになったことや特徴的な４号墳や古代の道路状遺構を確認したことなどこの地域の時代の変遷を知る上で貴重な資料を得ることができた。



図版4　本村遺跡
1．Ⅱ区全景　2．Ⅲ区全景　3．Ⅳ区全景　4．Ⅴ区全景　5．Ⅵ区全景　6．古墳群全景

4．西寒水七本柳遺跡（略号：ＮＮＹ）

遺跡の所在地

三養基郡中原町大字原古賀字七本柳

調査主体者

中原町教育委員会

調査期間

平成６年４月20日～平成７年３月31日

調査面積

15,400㎡

図24　西寒水七本柳遺跡位置図

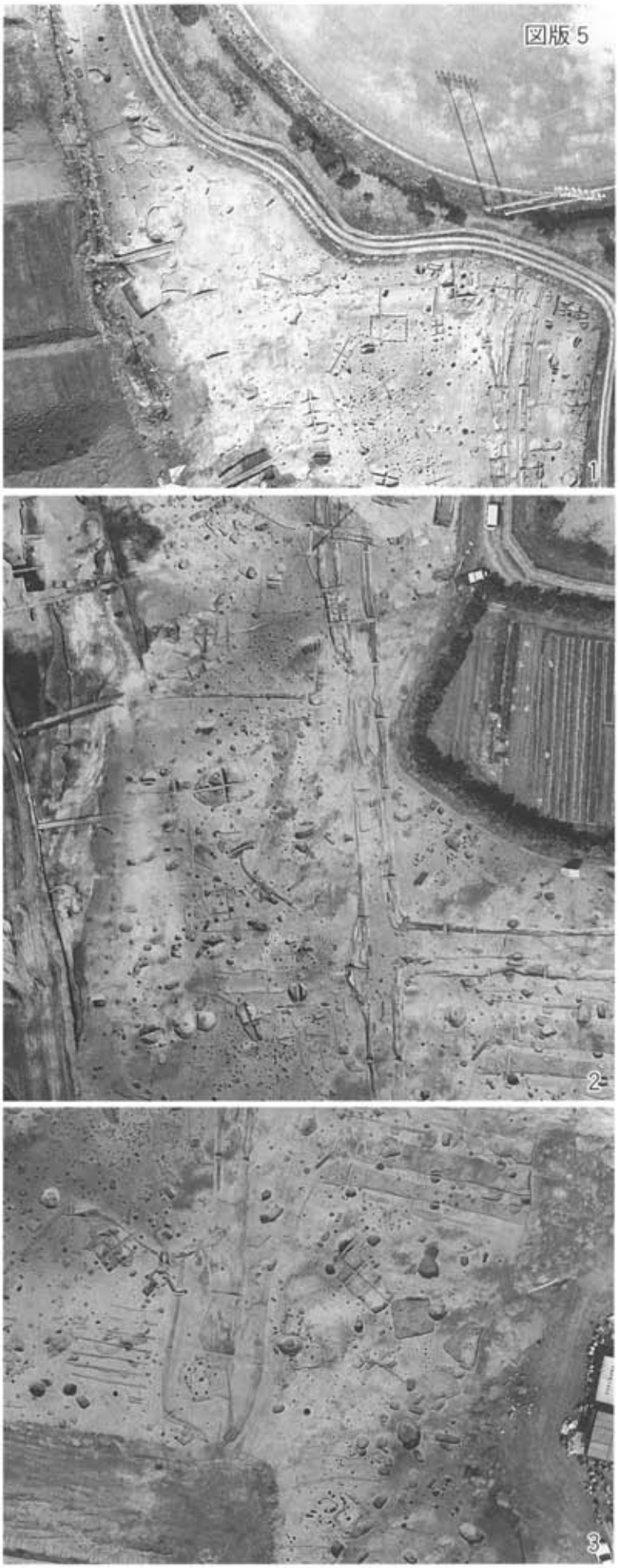
遺跡の概要

脊振山系から南に伸びる低台地の縁辺部に位置する遺跡である。遺跡は弥生時代から中世の集落跡であり、特に中世の遺構が主体を占めている。

弥生時代の遺構は、竪穴住居跡、土壙、甕棺墓、溝などがあり、弥生土器、石包丁などが出土した。古墳時代の遺構は、竪穴住居跡、土壙があり、須恵器、土師器が出土した。

中世の遺構は、溝、掘立柱建物跡、土壙、土壙墓、井戸がある。溝は、調査区の東部に北側と南側の２ヶ所を方形に区画するものとさらにその西側を区画するものがある。北側溝は溝のみの調査であり、南側は溝の内部も調査したが建物跡は検出できなかった。西側の溝は直線的に伸びており、溝の間が道路として使用されていたものと考えられる。土壙は、平面楕円形のものが多く、中には土師器の皿や陶磁器等を大量に廃棄してあるものもあった。土壙墓は２基検出し、完形の青磁碗、白磁碗、皿、小壺が副葬されていた。井戸は素掘りのものと石組のものがあり、中には井戸枠をもつものがあった。井戸からは、土師器、須恵器、国産陶器、輸入陶磁器、滑石製石鍋、下駄・櫛・建築部材の木製品など様々なものが出土したが、中でも輸入陶磁器は量が豊富であり、ここに住んでいた人がかなりの権力を有していたと考えられる。また、この他に鉄滓が出土していることからこの地で製鉄が行われた可能性がある。

今回の調査では、これまで中原町においてまとまった資料の少なかった中世の遺跡が発見されたことに加え、中世における屋敷跡の存在が判明するなど貴重な成果をあげることができた。



図版5　西寒水七本柳遺跡

1．北側全景
2．中央部全景
3．南側全景

5．屋形原遺跡（略号：ＹＫＴ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字一本松

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成６年８月22日～平成７年１月31日

調査面積

5,000㎡

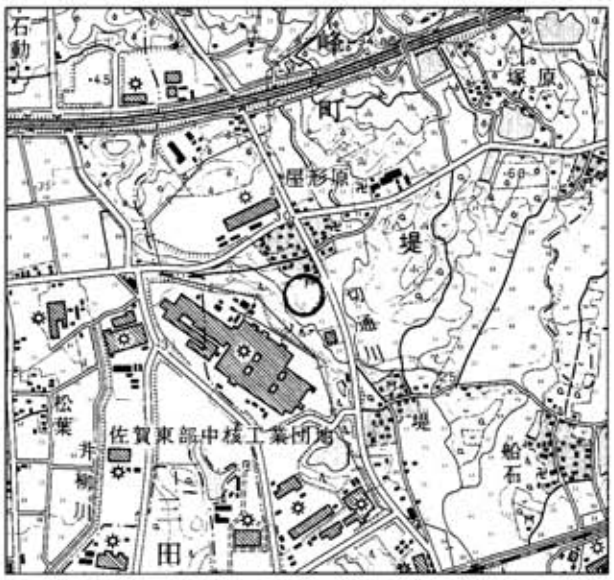


図25　屋形原遺跡全景

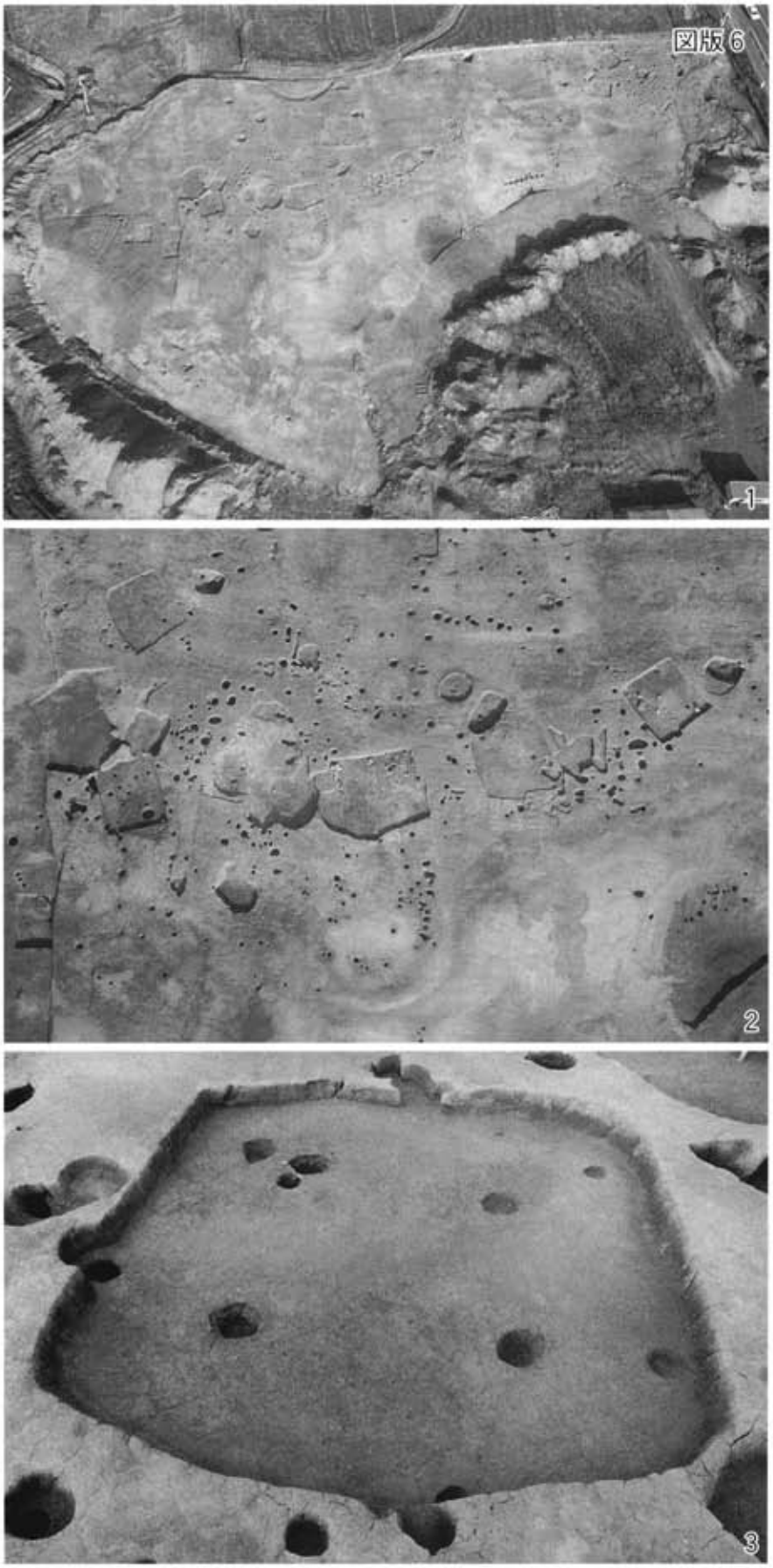
遺跡の概要

屋形原遺跡は、屋形原の集落の南側に広がる水田部が佐賀東部中核工業団地に至るまでの低位段丘上（標高21～27ｍ）に位置する。この地区の北側には宅地造成に関連して調査が実施され、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡、墳墓群が検出された屋形原遺跡が隣接し、西側の丘陵上にも二塚山遺跡をはじめとして弥生時代から古墳時代にかけての集落跡、墳墓群が密集している。東側は弥生時代から近世の集落跡が検出された堤六本谷遺跡、さらに東方には八藤遺跡が分布する。また東南側には二塚山丘陵と八藤丘陵を遮断する形で築かれている堤土塁跡が所在する。

調査は、面工事で削平される部分5,000㎡をⅡ区とⅢ区に分けて実施した。その結果、Ⅱ区は奈良時代の竪穴住居跡３軒、土壙11基、溝等が検出された。Ⅲ区は竪穴住居跡10軒、掘立柱建物跡、土壙が多数検出された。

今回の調査によって奈良時代の集落跡の一部が明らかになり、周辺の遺跡を含め集落の変遷を検討しなければならない。

註　杠一義　「屋形原遺跡」　上峰村文化財調査報告書第２集　1979



図版6　屋形原遺跡

1．Ⅱ・Ⅲ区全景
2．Ⅲ区竪穴住居跡
3．Ⅲ区ＳＨ041竪穴住居跡

6．堤六本谷遺跡（略号：ＴＴＲ）

遺跡の所在地

三養基郡上峰町大字堤字一本柳

調査主体者

上峰町教育委員会

調査期間

平成６年７月20日～平成７年１月31日

調査面積

2,000㎡

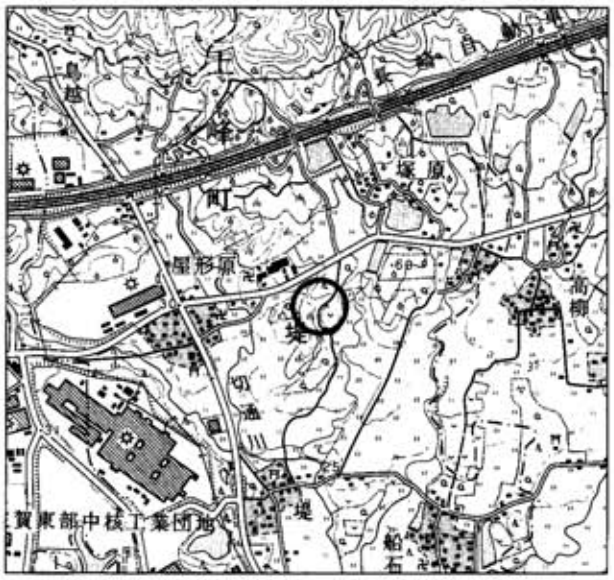


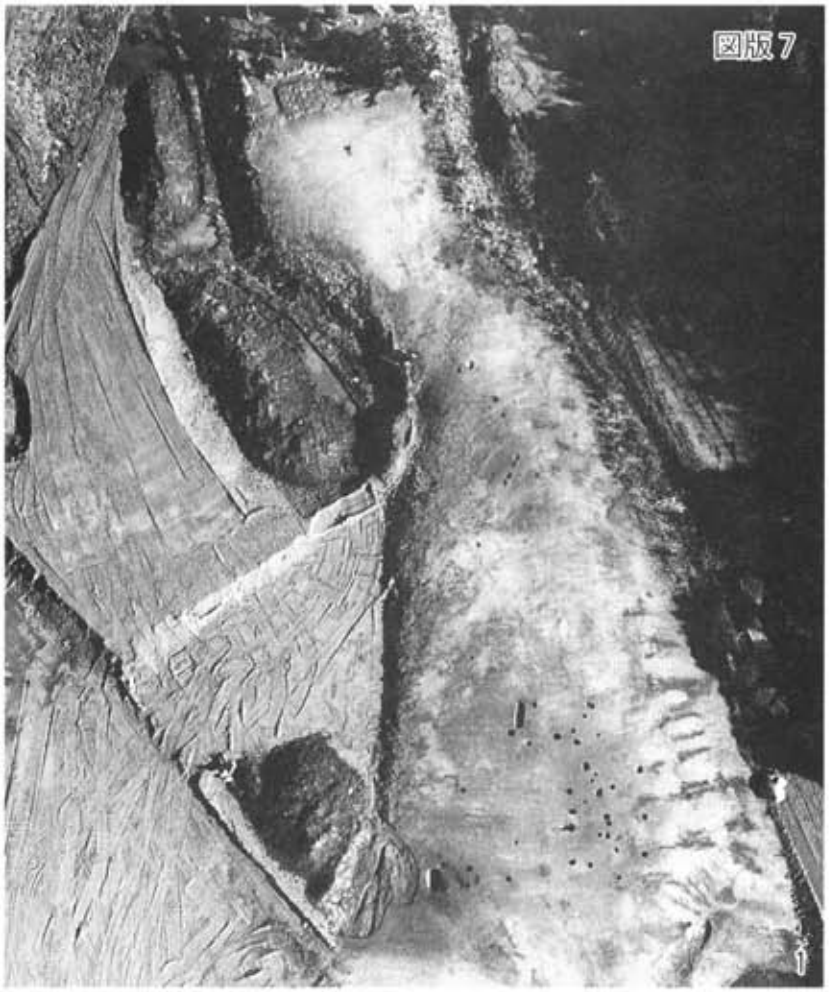
図26　堤六本谷遺跡位置図

遺跡の概要

堤六本谷遺跡は、脊振山系から派生する低位段丘上の標高35～37ｍに位置する。北側の山麓部は青柳、新立、谷渡、鎮西山南麓古墳群が分布し、古墳時代後期の小円墳が点在する。東側は八藤遺跡、西側に切通川を挟んで屋形原遺跡が所在する。また南側は二塚山丘陵と八藤丘陵を遮断する形で築かれている堤土塁跡がある。本遺跡の調査では、平成２年度に南端部と東南部が調査されており、弥生時代から近世の集落跡を検出している。

調査は、面工事で削平される部分2,000㎡をⅧ区（700㎡）とⅨ区（1,300㎡）の小区に分けて実施した。

今回の調査では、遺跡の性格を特定できる十分な資料が得られなかったが、この付近が堤六本谷遺跡の縁辺部に相当すると思われる。



図版6　堤六本谷遺跡

1．Ⅸ区全景
2．Ⅸ区ピット群

7．本村五本柳遺跡（略号：ＨＧＹ）

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字境原五本柳

調査主体

千代田町教育委員会

調査期間

平成６年11月～12月

調査面積

1,000㎡

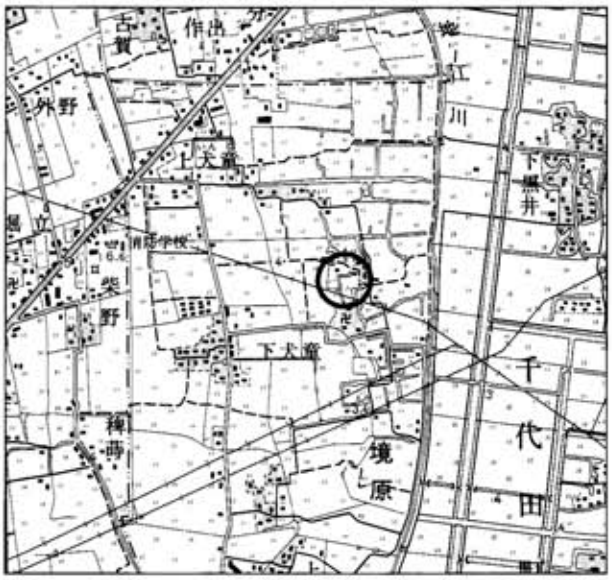


図27　本村五本柳遺跡位置図

遺跡の概要

本村五本柳遺跡は、千代田町の北西部、中地江川西方約300ｍ、標高約3.3ｍの沖積平野に位置する。この地は、江戸時代まで鍋島藩のお狩場として利用されていた場所で、小高い独立丘陵に藪が生い茂った場所であったと言われているが、現在は、明治時代以降の開墾により水田となっている。遺跡は、この丘陵の南側縁部に位置する場所で、前年度発掘調査を実施した本村四本柳遺跡の北方約100ｍに位置する。周辺には、貴別当神社遺跡、姉遺跡などの弥生時代を中心とする遺跡が存在する。

調査は、水路として掘削される部分について発掘調査を行い、便宜的にＡ、Ｂ、Ｃ地点に分けて調査を行ったが、Ｂ、Ｃ地点については、後世の開発により撹乱され遺構を検出することはできなかった。

Ａ地点より検出した遺構は、土壙８基、溝跡１条、その他不明遺構１基、大小多数の柱穴である。調査区南側は、後世の開発により撹乱されており、1/4程度は消滅している。

Ａ地点より出土した遺物は、中・近世の土師器、土師質土器、肥前系陶磁器、青磁、木製品、瓦質土器、金属製品などで、その出土量はコンテナ10箱程度である。

以上報告したように、調査面積が狭く遺跡の性格をつかむことは非常に難しく、今後の資料の増加をまって改めて集落解明を行っていきたい。

図版８　本村五本柳遺跡

１．ＳＫ008土壙　　２．ＳＫ004土壙　　３．発掘調査風景

４．Ａ地点全景　　５．Ａ地点近景　　６．Ｃ地点全景

8．下和泉一本椎遺跡（略号：ＳＩＳ）

遺跡の所在地

佐賀市久保泉町大字下和泉

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成６年７月20日～平成７年２月３日

調査面積

5,200㎡

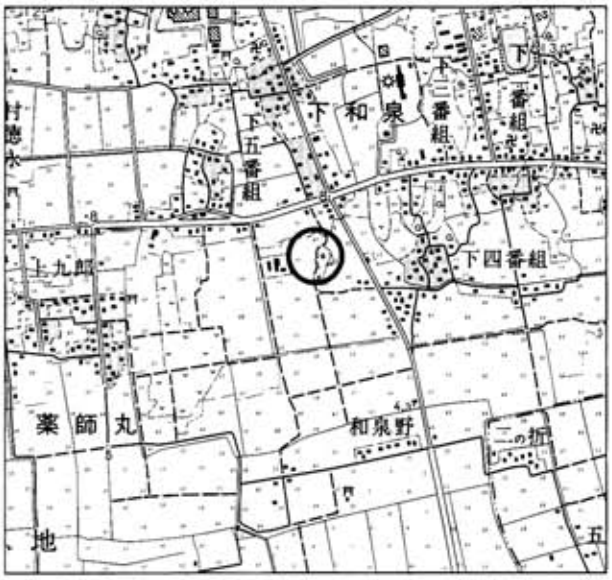


図28　下和泉一本椎遺跡位置図

遺跡の概要

下和泉一本椎遺跡は、佐賀市の東部、県道小城・北茂安線と県道佐賀・脊振線が交差する南西に位置し、脊振山地南麓の洪積台地から扇状地に移行する部分にあたる。今回調査した地区は丘陵の縁辺部であったと考えられ、現在は点在する標高約５ｍの高畑部分にその名残をみることができる。遺跡はこの高畑部分で集中して発見されている。

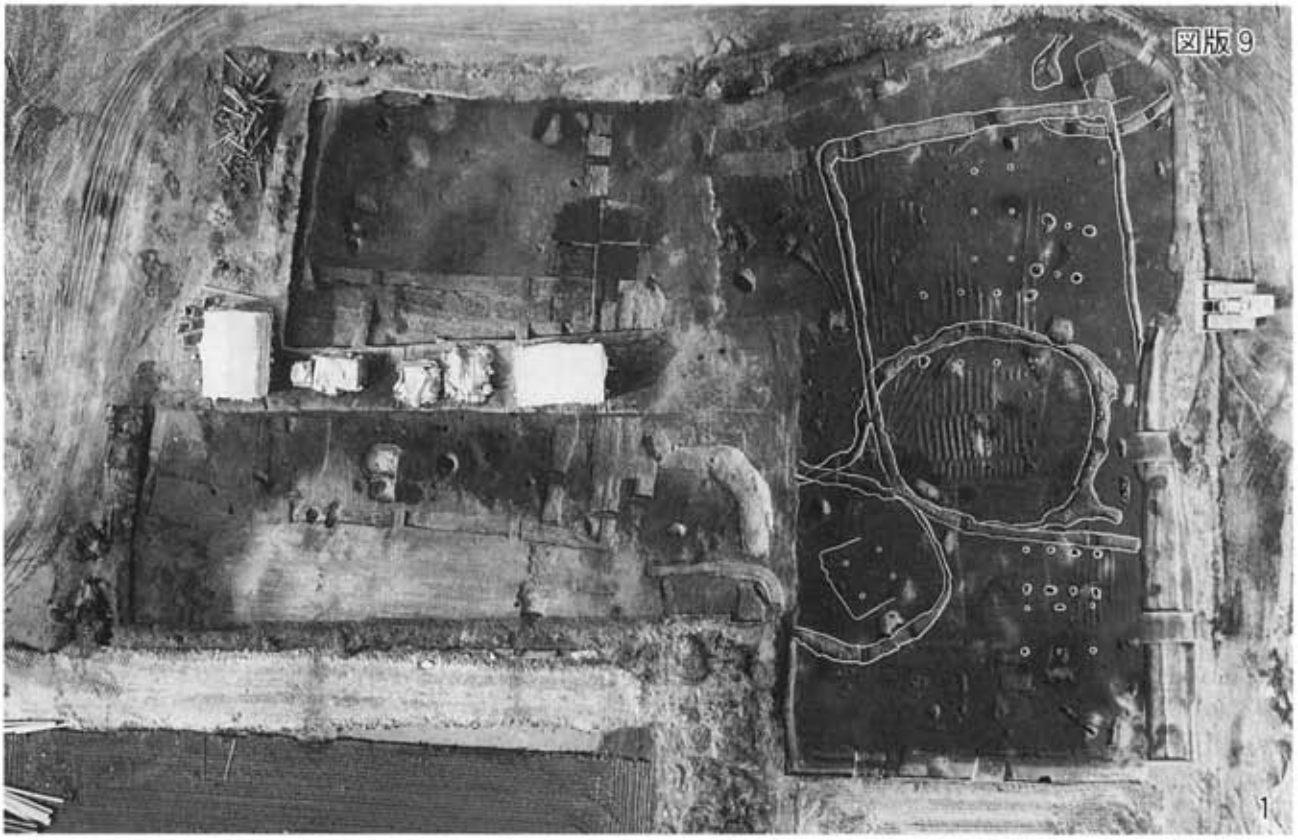
今回は、３地区で発掘調査を実施し、弥生時代から近世の遺構を確認している。

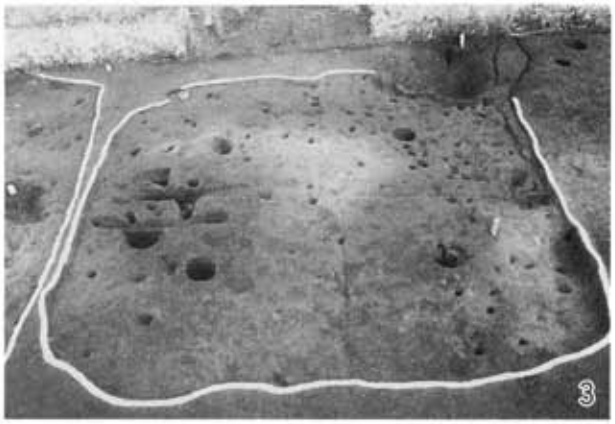
弥生時代の遺構は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土壙、溝、小穴で、中期から後期のものである。土壙からは甕・壺・鉢・高杯・器台等が割れた状態で多量に出土しており、廃棄土壙と考えられる。この中には祭祀用の土器が含まれているものもある。

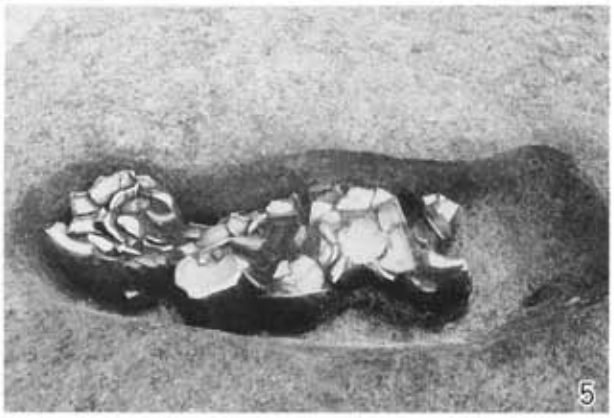
古墳時代の遺構は、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、溝、土壙、井戸である。竪穴住居跡は13軒あり、そのほとんどは正方形あるいは正方形に近い長方形に掘られている。この中には食料等を煮炊きしていたと考えられるカマドの跡が残っていたものもあった。また、焼けた木材を検出した住居跡があり、火災にあったと考えられるものもあった。溝は楕円形状にめぐる周溝状遺構が３条あり、このうち１条では内部空間に竪穴住居跡が建てられており、竪穴住居跡に伴う周溝である可能性が考えられる。これらの遺構からは土師器・須恵器等の土器が出土しており、中には畿内系や山陰系の外来系土器が含まれている。

平安時代の遺構は、掘立柱建物跡、井戸、土壙、溝、小穴などである。これらの遺構からは、土師器の杯・皿・椀・甕・甑、黒色土器椀などが出土している。

中世の遺構は、掘立柱建物跡、溝、井戸などがある。溝は、建物の周辺を長方形状にめぐるもので、敷地内と外部を区画する溝であった可能性が高いものであり、また溝の内部には大型の掘立柱建物跡も検出しており、この建物が中心的機能を有するものと考えられる。







図版9　下和泉一本椎遺跡

1．2区全景　　2．1区東側高畑部分　　3．1区SH104竪穴住居跡

4．1区SK162土壙遺物出土状況　　5．2区SK228土壙遺物出土状況

9．来迎寺遺跡（略号：ＲＫＪ）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字金立字来迎寺

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成6年12月20日～平成7年1月20日

調査面積

835㎡

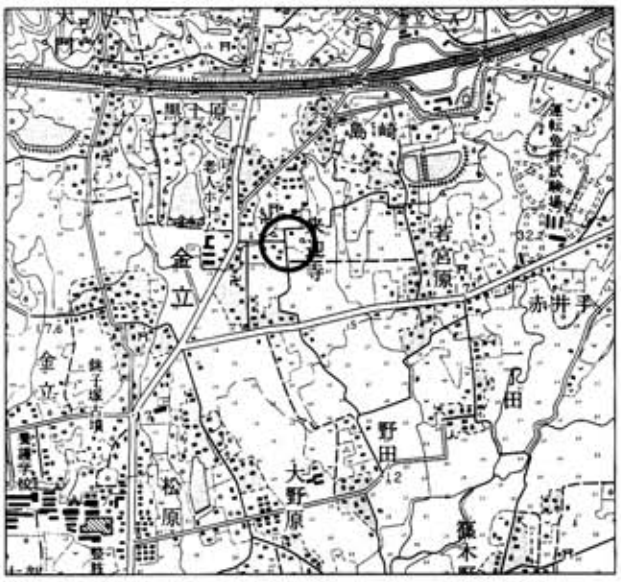


図29　来迎寺遺跡位置図

遺跡の概要

来迎寺遺跡は、市北部に連なる脊振山系南麓から派生した低位丘陵上に位置する。来迎寺遺跡では昭和63年に調査が実施されており、今回の調査が２度目になる。今回の調査地点は２箇所に分割されており、２区が標高16ｍ前後、３区が標高16.5～17.5ｍを測る。

２区は開墾時の削平が激しく、土壙１基以外に明確な遺構の検出はできていない。また出土遺物も検出遺構や表土中から縄文時代中期・中世～近世の遺物が少量出土している程度である。

３区は調査区の北半で、中世末～近世の区画溝に囲まれた集落の一部を確認している。調査区の南半は２区同様開墾時の削平を受けており、明確な遺構は検出していない。検出した遺構は掘立柱建物跡６棟、区画溝３条、溝１条、土壙、小穴等で、特に掘立柱建物跡は区画溝の内部において互いに重複した形で検出されており、頻繁に建て替えが行われたことを窺わせる。

今回の調査は調査面積が狭小であったため、その規模や全体像を明らかにできたものではない。ただ本調査区の南方約500ｍにある野田遺跡（平成５年度調査）でも、来迎寺遺跡とほぼ同時期と思われる溝で囲まれた屋敷地が確認されている。また検出された建物や溝の方位が来迎寺遺跡３区のものとほぼ一致していることから、なんらかの意識が働いていることは明かであり興味深い資料である。

図版10　来迎寺遺跡

1．2区全景
2．3区全景
3．3区掘立柱建物跡群

10. 若宮原遺跡（略号：WMB）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字金立

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成6年12月12日～平成7年1月17日

調査面積

630㎡

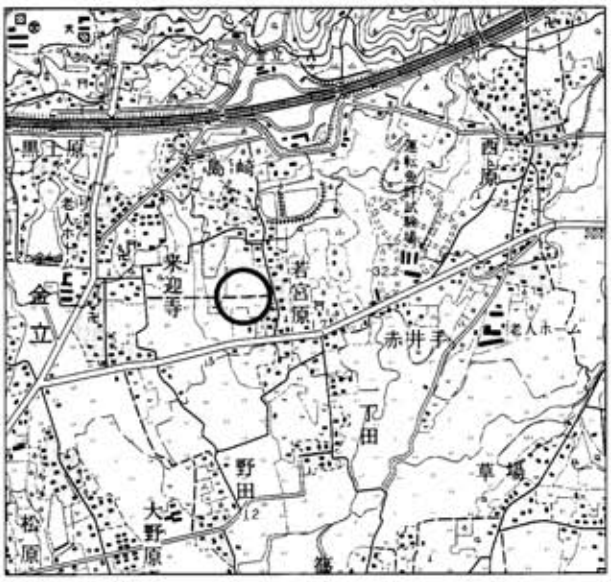


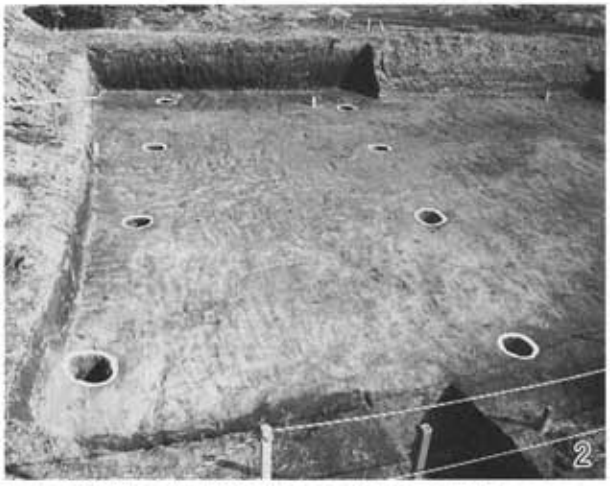
図30　若宮原遺跡全景

遺跡の概要

若宮原遺跡は、市北部の脊振山系南麓から派生した低位丘陵上に位置し、標高16m前後を測る。若宮原遺跡での調査は今回が初めてであり、調査の結果、中世の集落跡の一部であることがわかった。

検出した遺構は、掘立柱建物跡1棟、井戸1基、畑状遺構、溝10条、小穴等であり、出土遺物には土師器（杯）・白磁・青磁等がある。また、調査区の一部で縄文時代中期～後期にかけての遺物包含層を検出している。

今回の調査は調査面積が狭小であり、遺跡の全容を明らかにすることはできない。ただ、今回の調査区は地形的に考えて集落の縁辺部分にあたり、その中心は調査区の東側に広がる高畑にあるものと推測される。今後この高畑部分における発掘調査も予定されていることから、この調査結果と合わせて、遺跡の全容が明らかになっていくものと思われる。



図版11　若宮原遺跡

1．1区全景
2．SB001掘立柱建物跡
3．SE009井戸
4．包含層遺物出土状況

11. 西千布遺跡（略号：ＮＣＦ－１）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成6年9月21日～10月17日

調査面積

851㎡

図31　西千布遺跡位置図

遺跡の概要

西千布遺跡は佐賀市の北部域に位置する金立町に所在する。当遺跡は金立山南麓部から広がる低丘陵の南端部分に立地しており、調査区はさらに遺跡の南端部に位置して友貞遺跡と接している。調査以前はすべて水田として利用されていたが、農業用水路建設予定地に当たるため本調査を実施することになった。

遺構は標高5.2～5.3ｍの基盤層上面において確認した。検出した遺構は、掘立柱建物跡４棟・土壙27基・溝８条・井戸１基ほか多数の小穴である。遺構の様相から集落遺跡の一部であると判断し得る。ただし出土遺物の数が少ないうえ時期決定に堪え得る資料も少ないので、該当時期に割り出しに困窮するという事情がある。

（掘立柱建物跡）

全体に把握し得るものが２棟と北半部分のものが２棟確認された。後者については調査区外に展開している。全体を把握し得るもの２棟のうち１棟は、２間×２間の総柱で遺物は出土していない。北半部分のもの２棟のうち１棟は東西２間で南北は不明で遺物は出土していない。もう１棟は東西３間で南北は不明であるが、平安時代と推定される土師器が出土している。

（土壙）

27基検出したが、いずれも小規模なものばかりである。遺物も極めて少なく、時期的にも判然としないものが多い。そのうちＳＫ－112では硯に代用した奈良時代の須恵器片が出土している。

（井戸）

規模は径約1.4ｍ、確認面からの深さ1.05ｍを測る。遺構は１区の調査区中唯一の井戸である。この井戸からも土師器の破片小数が出土したにとどまる。いずれも資料化に堪えない遺物であるが、古墳時代にまで遡る可能性がある。

図版12

1．1区全景
2．SB137掘立柱建物跡
3．SB139掘立柱建物跡

12. 友貞遺跡（略号：ＴＢＳ－８～11）

遺跡の所在地

佐賀市金立町大字千布字友貞

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成6年7月～12月

調査面積

2,340㎡

図32　友貞遺跡位置図

遺跡の概要

友貞遺跡は佐賀市の北部域に位置する金立町に所在する。当遺跡は金立山南麓部から広がる低丘陵の南端部分に立地している。調査区は遺跡内に４箇所（８・９・10・11区）設定された。調査以前は水田もしくは高畑である。農業用水路または農道建設予定地に当たるため本調査を実施することになった。

（８区）

井戸８基・土壙13基・溝２条・掘立柱建物跡１棟・その他小穴多数を検出した。この中で中心となるのは井戸（ＳＥ801・803）であり、ともに多数の遺物を検出した。井戸の時期は８世紀末～９世紀初頭と推定される。とくにＳＥ－803とＳＤ－820の出土遺物の中に墨書土器が含まれていることは特筆すべき内容である。

（９区）

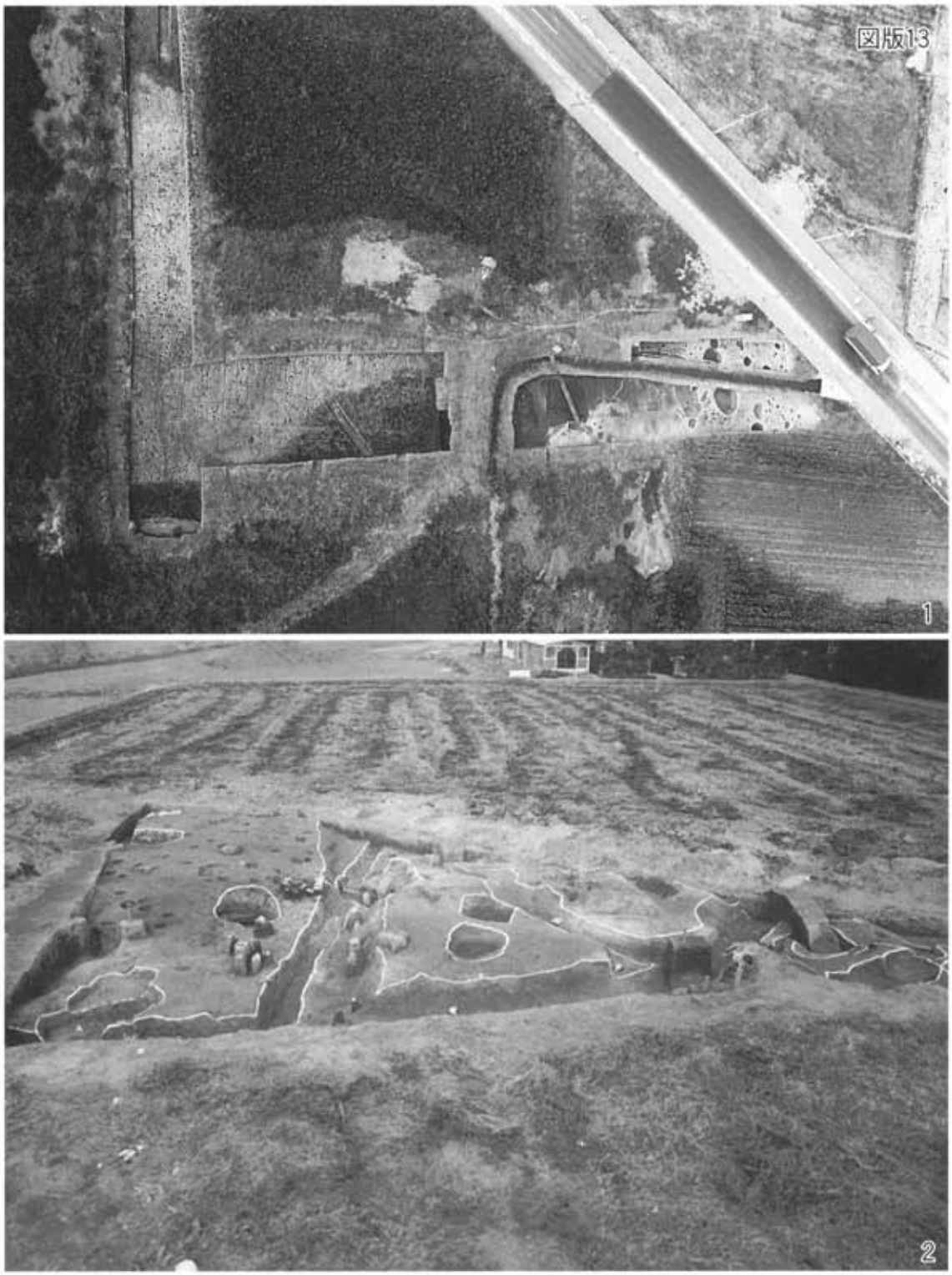
９区は戦国時代に活躍した神代勝利の出城（土生島砦）に推定されている城館跡の一部である。平成５年度調査の７区と隣接区であり、今回は砦推定地の北西部分にあたる。発見された遺構は、溝４条（ＳＤ－901・902・903・904）・土壙３基（遺物なく時期・性格不明）である。ＳＤ－901・902は高畑部分の西辺～北辺にかけて遺存する土塁に沿うかたちでＬ字形に廻る溝であり、堀跡と考えられる。幅は最大で９ｍを測る。またＳＤ－901・902は屈曲部分からさらに西方へ延びることも確認された。ＳＤ－903・904はＳＤ－901・902埋没後に掘削された溝である。出土した遺物からＳＤ－901・902の時期は戦国時代末～近世初頭と考えられる。

（10区）

調査区は土生島砦推定地北東端の高畑部分に位置する。発見された遺構は、弥生時代の甕棺４基・古墳時代の土壙１基・中世の土壙10基・溝５条・その他柱穴もしくは小穴である。

（11区）

遺構はほとんどが柱穴もしくは小穴で、ほかに土壙４基を検出したにとどまる。



図版13　友貞遺跡

1．8区全景　　2．10区全景

13. 忠兵衛屋敷遺跡（略号：ＴＤＹ）

遺跡の所在地

佐賀市兵庫町大字瓦町字屋敷田

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成６年７月19日～８月26日

調査面積

210㎡

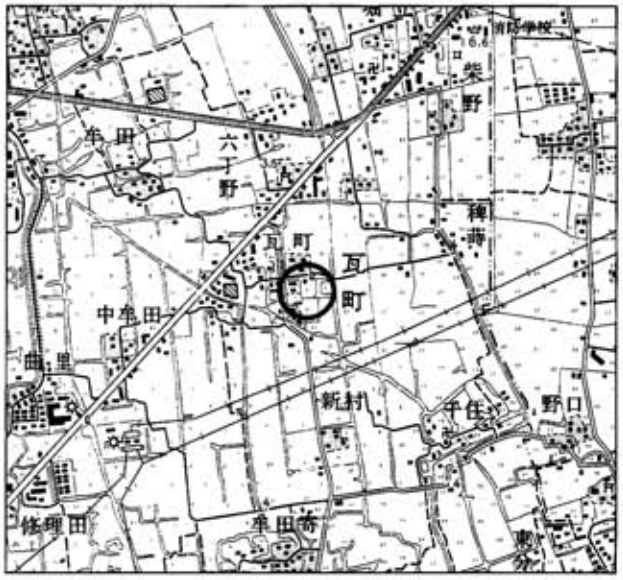


図33　忠兵衛屋敷遺跡位置図

遺跡の概要

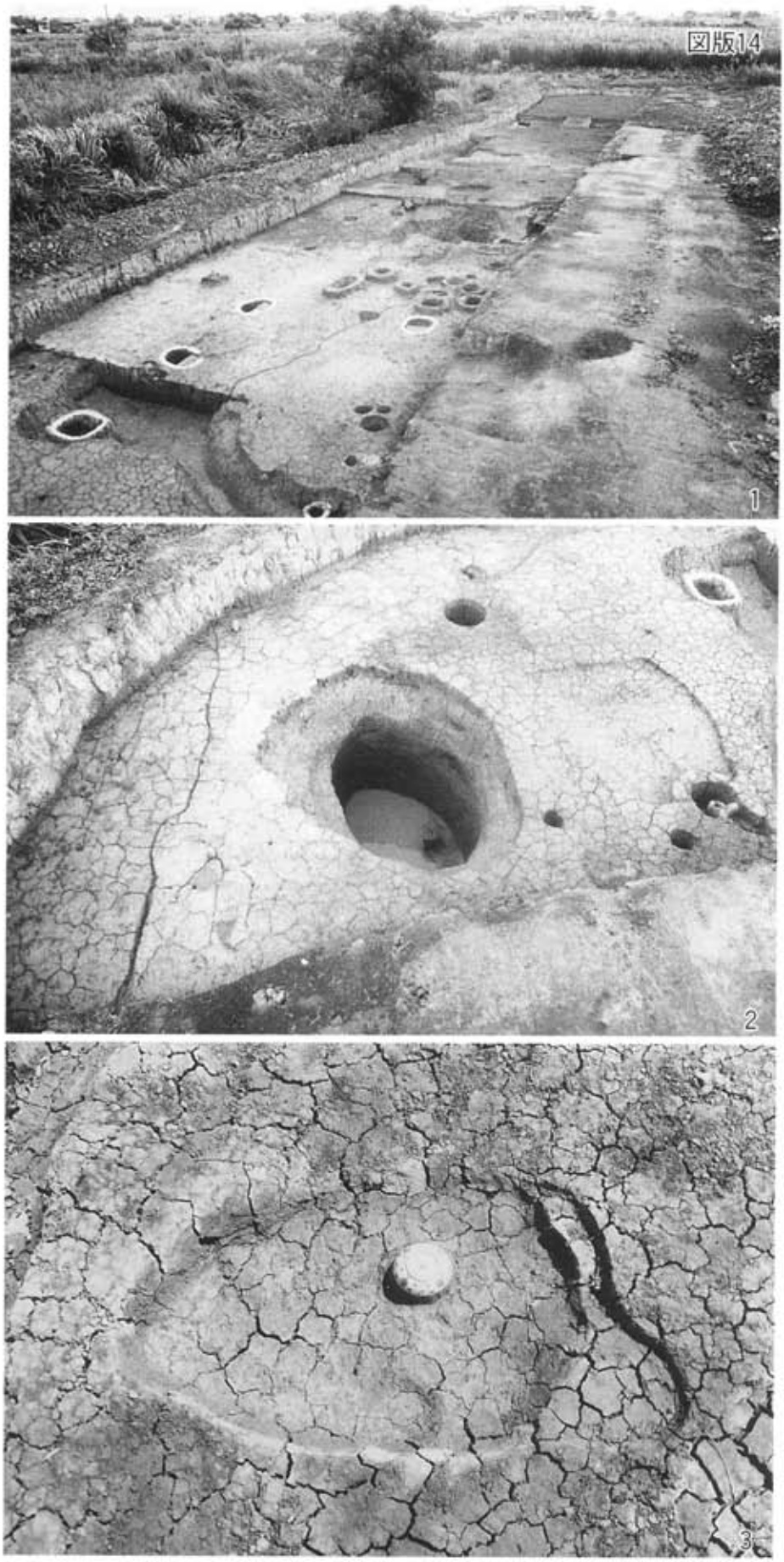
遺跡は、佐賀市東南部を南北に流れる焼原川の西岸、標高3.0～3.5ｍを測る低平な沖積平野に位置する。忠兵衛屋敷遺跡付近では、弥生時代の集落跡である瓦町遺跡、千住遺跡、千代田町の貴別当神社遺跡、弥生時代から中世の集落跡である牟田寄遺跡、中世から近世の集落跡である修理田遺跡などの調査が行われ、この地域の歴史が明らかになりつつある。

今回の調査は、掘削される水路部分のみを対象とした狭少なものであったが、室町時代を主体とする集落の一部を確認できた。

検出した遺構は、室町時代の掘立柱建物跡１棟、土壙５基、溝２条、江戸時代の土壙１基である。

室町時代の掘立柱建物跡や溝は部分的検出で規模、全容は不明であるが、溝は当時の集落を区画していた可能性も考えられる。土壙はいずれも廃棄土壙と考えられ、これらの遺構から、土師器の小皿・鍋、瓦器の湯釜・火鉢・擂鉢、青磁の碗などが出土している。

また、江戸時代の土壙からは、土師器の小皿、陶器の椀、染付の皿が出土している。



図版14　忠兵衛屋敷

1．全景
2．ＳＫ01土壙
3．ＳＫ06土壙

14. 修理田遺跡（略号：ＳＲＤ）

遺跡の所在地

佐賀市巨勢町大字修理田東分上

調査主体者

佐賀市教育委員会

調査期間

平成６年７月15日～９月13日

調査面積

362㎡

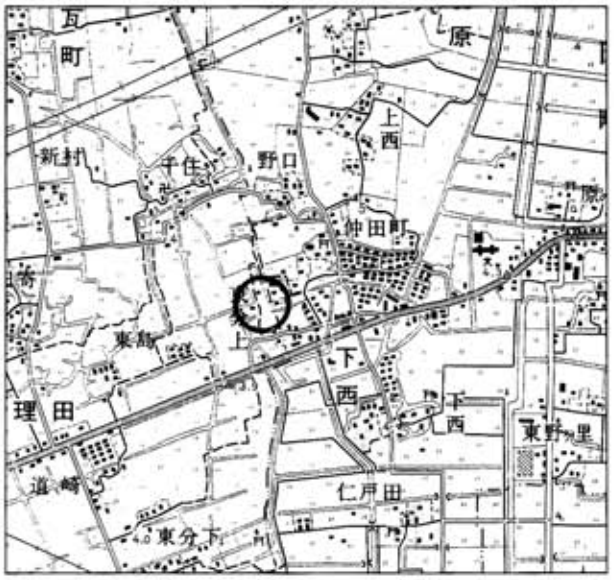


図34　修理田遺跡位置図

遺跡の概要

遺跡は、佐賀市南東部の巨勢町に所在し、神埼郡千代田町との市町境の標高約３ｍほどの低平な水田下に存在している。周辺にはクリークが縦横に走っており、大部分が農地として利用されており、宅地化はあまり進んでいない。

今回の調査で検出した遺構は、中世の溝１条、近世の井戸４基、不明遺構１基である。

中世の溝は、一部のみの検出でその全容は明らかでないが、比較的掘方規模の大きな溝である。この溝からは、土師器の杯・鍋、青磁の碗、陶器の擂鉢が出土している。

近世の井戸４基は、１ヶ所に集中して検出した。出土遺物は、１基から染付の皿が出土しているのみで他の３基から出土していないが、掘方・埋土状況がいずれも類似していたことから、ほぼ同時期の遺構と推定している。　不明遺構は、平面不整形な土壙であり、埋土中から弥生土器の甕片が出土しているが、少量であるため明確な時期の判断はできないが、調査地に近接してある千代田町の貴別当神社遺跡の調査では弥生時代前期～中期の集落跡が確認されており、この遺跡との関連性もうかがえる。

今回の調査地は、狭小であって検出した遺構も少なかった。そのため遺跡の性格等は把握しがたく、今後周辺で行われる調査結果に期待したい。

図版15　修理田遺跡

1．1区全景
2．井戸群
3．SE02井戸

15. 岡遺跡（略号：ＯＫＡ）

遺跡の所在地

多久市多久町岡

調査主体者

多久市教育委員会

調査期間

平成７年１月12日～２月10日

調査面積

1,260㎡

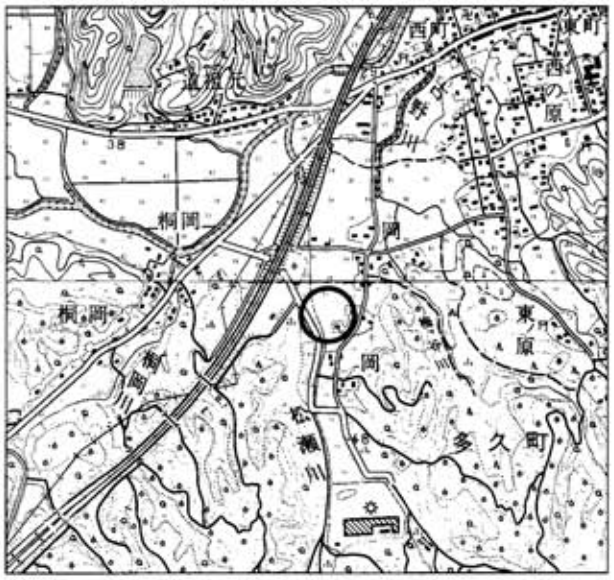


図35　岡遺跡位置図

遺跡の概要

遺跡は、松瀬川によって形成されたと推定される谷部に位置する。調査区は周辺より比高が１ｍほど高く、居住地には適している。調査前は畑地であった。

発見された遺構はごみ穴、柱穴等である。この遺跡からは、瓦・陶磁器などが収蔵用コンテナ（55cm×35cm×20cm）５箱分が出土した。陶磁器類は唐津系の大皿・擂鉢・灯明皿・芙蓉手の皿、青磁の香炉・灯明皿、土鈴などが出土している。遺物は17～19世紀末頃まであり、19世紀末頃のものが最も多く、17世紀のものはわずかである。

多久郷土資料館に収蔵されている元禄時代の絵図によると、遺跡の位置は市丸太良衛門の敷地にあたっている。なお、多久家文書には、遺跡の所在地である多久町に多久家のお抱えの町医者が数名住んでいたことが記されており、地元では昔、屋敷があったと言い伝えられている。また、この遺跡から擂鉢が多く出土しており、医者の邸宅などを想像させる。

多久市には近世の文献や絵図が多く残されており、遺跡からわかった事実との照合も可能である。今後、市内でこの遺跡のような発見が増えれば、近世研究の進展に貢献することになるだろう。

図版15　岡遺跡

1．遺物出土状況
2．Pit 1
3～5　出土遺物（縮尺，不統一）
　　3．瓶（油壺）
　　4．擂鉢
　　5．土瓶

16. 田手二本松遺跡（略号：ＴＤＭ）

遺跡の所在地

神埼郡三田川町大字田手字二本松

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

平成６年５月９日～５月31日

調査面積

262㎡

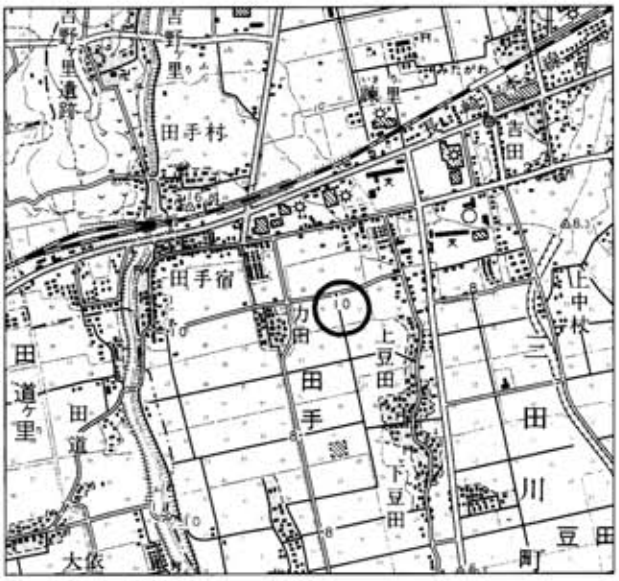


図36　田手二本松遺跡位置図

遺跡の概要

田手二本松遺跡は、田手川の東岸、吉野ヶ里丘陵の東南部標高7.5～8.2ｍの水田部に位置しており、縄文時代晩期～弥生時代前期の遺跡である。今回の調査は平成５年度に引き続き行ったものである。また、この遺跡は、昭和50年代の圃場整備事業からは外されており、平成５年度に行った東部導水路事業（筑後川下流用水路事業）の確認調査で発見された遺跡である。前回の調査では明瞭な遺構は確認できなかったが、今回の調査では縄文時代晩期～弥生時代前期の包含層・ピット（小穴）・円形土壙や畦畔と考えられる遺構を確認した。遺物は、浅鉢・甕等の土器類や土製品、石器などが出土している。

図版17　田手二本松遺跡全景

水田遺構については、はっきりと言えるものではないが、今回の調査によって玄海灘周辺のみならず有明海沿岸においても縄文時代晩期～弥生時代前期の水田が図版17される可能性が大きくなった。

Ⅳ. まとめ

平成６年度の農業基盤整備事業等に係る文化財確認調査を、佐賀東部地区の東脊振村、神埼町をはじめ県内５市９町３村の36地区で実施し、筑後川下流用水事業に係る文化財確認調査を諸富町、三田川町、北茂安町の３町の６地区で実施した。

また、平成５年度の確認調査結果の協議に基づき実施した発掘調査（本調査）は、鳥栖市、中原町、上峰町、千代田町、佐賀市、多久市の15遺跡と筑後川下流用水事業地区内１遺跡の計16遺跡である。

以下、平成６年度の確認調査について、まとめてみたい。

佐賀東部地区では、東脊振村林道九千部山横断線・神埼町早稲隈山地区で遺構が確認された。

林道九千部山横断線では、踏査により、東脊振村から霊仙寺跡を通り筑前へと続く古道の一部が対象地に含まれていることがわかったため、道の規模・構造等を知るため確認調査を実施した。その結果、地山を掘削して切り通した幅約３ｍの通路が明らかとなり、「筑前街道」として周知化した。平成６年度の工事対象地区であったため、工事着手前にさらに調査を実施し、「町石」と呼ばれる標石を検出した。この「町石」は麓の坂本から霊仙寺までの間に１町ごとに立てられており、道の存在を明らかにする資料である。今回現状のまま保存することは不可能であったが、今後の本県の中近世の古道への取り組みを再考させる事例となった。神埼町早稲隈山地区では、林地保全事業に伴い天神尾古墳群の確認調査を実施し、２基の古墳と古墳の可能性が高い２基の石積みを検出した。この事業も土砂崩壊の恐れが高いところから、引き続き発掘調査を実施し、４基とも竪穴系横口式石室を内部主体とする５世紀後半から６世紀前半の円墳であることがわかった。また、この地区の周辺では神埼町教育委員会により、天神尾古墳群、寺山古墳群の大型開発に伴う緊急調査が行われ、竪穴式石室・竪穴系横口式石室・横穴式石室を内部主体とする円墳８基が確認されている。

佐賀東部地区では、面的な圃場整備がほぼ終了し、林道を中心とする確認調査であったが、「筑前街道」の調査等大きな成果を得ることができた。

佐賀西部地区では、佐賀市金立北部地区・金立南部地区・兵庫西部地区、多久市本多久地区で遺跡の存在が確認された。

金立北部地区は、対象地28ha全域が縄文時代～中世の遺物散布地である上赤井手遺跡・金立遺跡・権現原遺跡の範囲に含まれ、また対象地周辺でも開発に伴い緊急調査が行われているところから、広範囲にわたっての遺跡の存在が予想される地区であった。調査の結果、竪穴住居跡・土壙・溝等弥生時代～中世の集落跡と考えられる遺構が検出され、遺構の分布範囲は、12haを上回り、予想に違わぬ結果であった。金立南部地区も対象地17haの大部分が弥生時代～中世の遺物散布地である西千布遺跡に含まれていることや周辺での調査事例から、金立北部地区同様広範囲にわたる遺跡の存在が予想できる地区であった。調査の結果、竪穴住居跡・土壙・溝・柱穴等の遺構が約10haにわたって確認され、古墳時代と平安～中世を中心とする集落跡であることがわかった。兵庫西部地区は、対象地が標高3.3程の低平な平野部であり、佐賀平野特有の「クリーク」が縦横に走る地区である。

調査により、クリークに囲まれた「島」状の部分から、中世～近世の溝・土壙・柱穴が確認され、小規模な居館跡の存在が推定できる。遺跡が確認された部分は、未周知であったため、「妙常寺北遺跡」・「妙常寺南遺跡」として周知化した。本多久地区では、平成６年度に発掘調査（本調査）を行った岡遺跡の隣接地９haを対

象に実施し、縄文時代及び古墳時代の遺跡が確認できた。

佐賀西部地区は、農業基盤整備事業が後発であったこともあり、近年事業が集中している。特に佐賀市の場合、金立北部地区、金立南部地区で予想以上の遺跡の広がりが確認されたため、農林担当部局との調整には時間を要したが、設計変更や事業箇所の繰り延べ等農林担当部局内部での調整、佐賀市教育委員会での発掘調査面積の最大限の対応等、7年度事業に関する取り組みは想像以上のものであり、各部局、担当者には改めて感謝したい。

佐賀南部地区では、鹿島市と太良町の2地区において調査を実施したが、遺跡は確認されなかった。両地区とも小規模な事業であったため、今回未周知地区と言うこともあり、遺跡の発見には至らなかったが、周辺には埋蔵文化財包蔵地が点在しており、農業基盤整備事業等に係わらず注意を払っておく必要がある。

佐賀北部地区では、伊万里市の国営伊万里地区総合農地開発事業を中心に12地区で調査を行い、木須団地・木須里団地、相知町の平山上地区で遺構の存在が確認された。木須団地では、旧石器時代～縄文時代にかけての良好な包含層が確認され、ナイフ形石器・スクレイパー・剥片等が出土し、「真中遺跡」として周知化した。また、伊万里市は近代の炭鉱が栄えたところでもあるが、この地区から英国人鉱山技師モーリスにより明治期に掘られた炭鉱の試掘縦坑跡が確認されたことは、興味深い。木須里団地では、縄文・古墳時代の包含層、中世の柱穴等を検出し、「宮ノ前北遺跡」として周知化した。平山上地区では、中世の柱穴や溝状遺構を検出し、「平山上遺跡」として周知化した。平山上遺跡については、設計変更により盛土保存が決定したが、谷底平野部における遺跡の立地について、新たな資料を提供できたと言える。

佐賀北部地区では、伊万里市における国営事業がピークを迎え調査が集中したが、真中遺跡・宮ノ前北遺跡・平山上遺跡の発見など大きな成果を得ることができた。

佐賀上場地区では、唐津市の上場地区（雲透地区）・上場Ⅱ期地区（支線道路4号八幡ー馬部線）、肥前町の上場Ⅲ期地区（赤坂地区）、玄海町の上場Ⅳ期地区（長倉地区）で遺跡の存在が確認された。

上場地区（雲透地区）は、対象地区が2haと小規模な事業にも係わらず弥生時代の良好な包含層を確認できた。包含層から弥生時代の中期を中心とする土器や土錘が出土しており、朝鮮半島に最も近い上場台地の弥生時代の遺跡の立地の在り方に興味が持たれる遺跡のひとつである。上場Ⅱ期地区（支線道路八幡ー馬部線）では、旧石器時代～縄文時代の良好な包含層が検出された。黒曜石製の石器や縄文土器が出土しており、旧石器時代や縄文時代の遺跡が県内では最も集中する上場台地の様相を知る上で貴重な資料である。なお、この上場Ⅱ期地区内には文禄・慶長の役に際し築かれた肥前名護屋城への太閤道と呼ばれる古道があり、東脊振村の筑前街道同様道の調査・保存について慎重を期すべき地区でもある。上場Ⅲ期地区（赤坂地区）では、ナイフ型石器や縄文土器が出土する包含層を検出した。上場Ⅳ期地区（長倉地区）では、従前の確認調査により弥生時代の石棺墓を確認したため、設計変更等により石棺墓の保存を前提に調整を行ってきた地区であるが、他事業との調整から石棺墓を削平せざるを得ない計画になり、改めて確認調査を行ったものである。調査の結果、石棺墓周辺から大小の礫を敷き詰めた、13～14世紀にかけての遺物を伴う石敷遺構が検出され、松浦党の有浦氏との関連で注目される遺跡である。この他鎮西町の上場地区（麦原地区）は、明確な遺構は伴わないが、名護屋城期の遺物も出土しており、陣跡の範囲や周辺の歴史的環境の保全についての考慮を、さらに検討する必要性があることを感じた。

平成7年度の農業基盤整備事業等に係る文化財確認調査及び調査結果に基づく協議に際しては、多くの方々に手を煩わし、またご迷惑をかけているが、農林担当部局、土地改良区、市町村教育委員会の協力により、順調に運ぶことができた。関係者各位に感謝したい。

報告書抄録

ふりがな	さがけんのうぎょうきばんせいびじぎょうにかかるぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書14
シリーズ名	佐賀県文化財調査報告書
シリーズ番号	第130集
編集者名	西田和己
編集機関	佐賀県教育委員会
所在地	〒840　佐賀県佐賀市城内1－1－59　TEL.0952(24)2111
発行年月日	1996年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査対象面積 (確認調査) ha	調査原因
佐賀県農業基盤整備事業地区内遺跡	佐賀県内					19940401 ～ 19950331	418.4	農林業基盤整備事業等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
佐賀県農業基盤整備事業地区内遺跡	集落 墓地 古墳 ほか	旧石器時代 ～ 近代	集落遺構 甕棺墓 古墳 包含層 ほか	石器・土器 陶磁器 ほか	確認調査報告のほかに、平成6年度に農業基盤整備事業に伴い実施された16遺跡の調査概要を所収

佐賀県文化財調査報告書第130集

佐賀県農業基盤整備事業に係る文化財調査報告書14

平成８年３月31日発行

編集・発行　佐賀県教育委員会
佐賀市城内一丁目１-59
ＴＥＬ 0952 (24) 2111
印　　刷　株式会社　音成印刷
小城郡小城町253-4
ＴＥＬ 0952 (73) 4113